



第139号

Web Fairy Paradise

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第117回 WFP 作品展(再掲)
- ・ 第118回 WFP 作品展
- ・ 推理将棋第124回出題

結果発表

- ・ ちょっと早い2020年年賀詰作品展
- ・ 推理将棋第122回解答
- ・ 第3回神無太郎の氾濫 解答編
- ・ 第2回不詰展示会 by 占魚亭

読み物

- ・ 強欲な世界(たくぼん)
- ・ レトロプロブレム入門(1) by 高坂研
- ・ 年賀詰紹介
- ・



2020 / 1

はじめに



淡路島 七福神巡り

皆様、明けましておめでとうございます。今年も WFP よろしく申し上げます。今年の12月には150号を迎えます。記念となる1年にしていきたいと思ひます。

私ごとですが、今年60歳還暦を迎えることとなり、厄年ということで年を明けて淡路島の七福神巡りに行って来ました。関西の方はよくご存知でしょうが、淡路島七福神めぐりは、七人の神様が祀られるお寺を参拝しながら淡路島を回ります。全てめぐると七つの幸福を授かるパワースポット巡りです。淡路島を七福神が乗り合う一つの宝船に見立てています。

朝早くから出発すれば1日でも回れるのですが、疲れが出そうなのでのんびりと2日に分けての小旅行です。

初日に、八浄寺(大黒天)→宝生寺(寿老人)→智禅寺(弁財天)→長林寺(福祿寿)、2日目に万福寺(恵比寿天)→覚住寺(毘沙門天)→護国寺(布袋尊)と回りました。各寺で御祈願や法話などを聞き、心を新たに今年も頑張ろうという気になりました。お寺で神様というちょっと変わった体験でした。興味のある方は是非回ってみられたらと思ひます。

本号より高坂研氏による「レトロプロブレム入門」の連載が始まりました。WFPではチェスの記事はほとんど初めての事ですのでお楽しみ下さい。

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

感想

第139号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん：takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々のHPアドレス

*ご協力感謝します

妖精都市

<http://cavesfairy.gl.xrea.com/pub/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://k7ro.sakura.ne.jp/>

K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

フェアリー時々詰将棋

<http://fairypara.blog.fc2.com/>

占魚亭残日録

<https://sengyotei.hatenablog.com>

第117回WFP作品展(再掲)及び 第118回WFP作品展

担当：神無七郎



明けましておめでとございます

今年は近くの土手ではなく、府道沿いの大きな歩道橋まで足を運び、初日の出を見に行きました。あいにく雲が厚く日の出の瞬間は見られませんでしたでしたが、朝の冷たく澄んだ空気を吸って爽やかな新年を迎えられました。高台からは日の出を直接見ることができたそうなので、これは運もありますね。上の写真は朝陽が雲間から顔を出し、山並みを照らし出したときのもの。日の出から数十分後に撮った写真です。気持ちも新たに今年も詰将棋に励みたいと思います。

少し話は遡りますが、昨年 11 月頃「ねとらぼ」の企画で「マイクロコスモス」に関するインタビューを受けました（記事が公開されたのは 12 月 24 日）。これは Yahoo! との共同企画だったので、Yahoo! ニュースにも載りました。一般の方も読む媒体に記事が載ったので、これをきっかけに少しでも詰将棋に興味を持つ人が増えてくれると嬉しいですね。

このインタビューでは「詰将棋コンピュータ」にも少し触れたのですが、年明けに sogas 氏が詰将棋で「計算機を作ろう」という記事を公開されました (<https://uso-800-plus-alpha.hatenablog.com/entry/2020/01/02/125419>)。何だか筆者が発表を急がせたようで申し訳ない気もするのですが、これは要注目記事です。(盤駒の制約がなければ) 詰将棋で何でもできるというのが、単なる予想なのか、証明可能な「定理」なのか、これで明確になりそうですね。

20 世紀のフェアリー

今回はフェアリー詰将棋の歴史を振り返る連載の最終回です。年を跨いでしまったので、これまでのおさらいから始めたいと思います。

1. おさらい

まずは前回までの連載の内容を簡単に整理しましょう。

1970 年以前、変則詰将棋は散発的に発表されていたものの、大きな動きはありませんでした。

1970 年代に起こったのが「ばか詰」ブーム。短期間で驚異的發展を遂げ、フェアリー詰将棋の歴史が本格的に始まりました。

1980 年代は人気ルールが「ばか詰」から「ばか自殺詰」に移り、多様なルールが生まれました。ルールの整備も必要になり、時には普通詰将棋の慣習を捨てる決断も行われました。

1990 年代は情報技術の發展の影響が顕著になった時代です。機械検討やデータベース等の創作支援環境が整備され、ネット上で作品発表が行われるようになりました。

2. 割愛した話題

歴史は詳しく記述するときりがありません。これまで述べた以外にも重要な出来事はありませんし、既知のものとして説明を省略してしまった事項もあります。

以下に割愛した話題のうち、主なものについて列挙し、簡単に説明します。

(1) 表彰制度と受賞作

普通詰将棋の「看寿賞」に倣い、「前衛賞」がフェアリーの年間最優秀賞として創設されました。賞は絶対的なものではありませんが、後の人々が当時の流行や、活躍した作家を知る手掛かりになります。後年「前衛賞」は「妖精賞」に変わり、ネット発表作への賞は「Fairy TopIX」が誕生しました。各賞の特徴や受賞作をまとめると、フェアリーの歴史を振り返る良い資料となるはずです。

(2) 発表媒体

連載中もしばしば名前が出てきましたが、発表には発表媒体が必要です。最初に生まれた常設的なフェアリー詰将棋の発表場所は、詰将棋パラダイス誌の「ばか詰教室」です。その後、

様々な発表誌が生まれ、それらは正式発表の場であったり、正式発表前の相互検討・批評の場であったりしました。それぞれの発表誌について、各々の特徴や発行期間を整理しておくことも歴史を語る上では必要でしょう。

(3) 改名問題

1980年代にはルールの中身についての議論だけでなく、ルールの呼称についても議論が起きました。内輪ではユーモアで済むものでも、一般にはネガティブな印象を与える言葉が使われていたからです。WFP 作品展では「ばか詰」を「協力詰」、「自殺詰」を「自玉詰」と呼称していますが、これは本誌が不特定多数の閲覧が可能なネット誌であることを考慮したものです。ただ、当時は必要性だけでなく、個人の好みや思惑による改名案も俎上に上ったため、議論の混乱に拍車が掛かってしまいました。その顛末や結果(新旧のルール名の対応や異称)についても、纏める必要があるでしょう。

(4) 1990年代の動向

1980年代のルールの多様化については本連載でも触れましたが、1990年代は更に多様化が進みました。チェスプロブレムからのルールの輸入が本格化し、フェアリー駒使用作品が増加したのもこの時代です。また、コンピュータを使用した「絨毯爆撃」も始まりました。創作・解答・鑑賞・批評といった従来の接し方以外に、調査・研究という詰将棋への接し方が加わったのです。多様・多量の作品群とどう向き合うか、新たな模索が始まった時代と言えるでしょう。

3. 数字で見る 20 世紀のフェアリー詰将棋

この連載は筆者の目から見た主観的なフェアリー詰将棋の歴史を語ったものですが、多少なりとも客観性が感じられるよう、統計的な数字も出してみます。フェアリーデータベースから特定の条件でデータを抽出したものです。

まずは発表作品数です。10年ごとに区切って、登録されている作品数を調べてみました。

1960年代	24作
1970年代	841作
1980年代	2182作
1990年代	6283作

データベースには不完全作や修正図も登録されていますし、逆に作品集発表作など収録されていないものもあるので、この数字はあくまで目安と捉えてください。各数字を120で割れば一ヶ月あたりの発表数分かるので、普通詰将棋の発表数と比べるときには、その数字を使うと良いでしょう。

なお、1990年代は機械検討による発掘調査の結果が含まれるので、値が極端に跳ね上がっています。「絨毯爆撃」の注釈があるデータを除くと発表数は2881作になります。この中には小規模な絨毯爆撃結果も混ざっているので、これを除いた発表作数は1980年代と同程度と考えられます。

次は作者数を見てみましょう。

1960年代	9人
1970年代	116人
1980年代	176人
1990年代	226人

同一人物が別のペンネームで発表している場合や合作も別々にカウントされているので、実数はこれより少ないのですが、年を追うごとに作家の数が増えているのは確かでしょう。

最後にルールの種類を見てみます。

1960年代	6種
1970年代	46種
1980年代	179種
1990年代	358種

上記の集計では組合せルールを別々に計上しています。ルール名の不統一もあり、あまり正確な数字ではありません。フェアリー駒を使った作品は、それが備考欄に書かれている場合があるため、実質はもっと種類が多い可能性があります(特に1990年代は要注意です)。

まとめると、作品数は1980年代で一定の規模に到達。作者数は順調に増加。ルールの種類は1990年代に大きく増加したと言えそうです。

4. 21世紀のフェアリー

今まで駆け足でフェアリー詰将棋の歴史を見てきましたが、1970年代からの30年間はフェアリーが詰将棋の世界にしっかり根を下ろし、確固たる地位を得た期間だったと思います。

それに伴い、フェアリーは特別なものではなくなりました。筆者がフェアリーを始めた1980年代にはまだ「フェアリーは特異な感覚を持った一部の詰棋人がやるもの」という空気がありました。今でもその傾向は残っていますが、当時に比べればフェアリーはかなり常識的存在となった感があります。喩えるなら「一般教養科目」。それを専攻するかどうかは別として、詰将棋に携わる者なら、一定の知見を備えておくのが望ましい教養の一つと言えるところまで、存在感を増したと思います。

そうした30年を経て、フェアリーは21世紀を迎えました。21世紀に入って、既に20年近くが経とうとしているので、これも「歴史」として振り返っても良いのですが、小規模な連載物としては、ここで区切るのがちょうど良いでしょう。10年後くらいにどなたかが「21世紀のフェアリーを振り返る」という企画を立案し、四半世紀分のフェアリー詰将棋についてまとめてくださることを期待しましょう。

では今月の出題です。今回は第117回の再々掲載分と第118回の新規出題です。なお今年度から出題数に上限(目安は12題)を設けさせていただきました。今回掲載から漏れた投稿作については自動的に次回に繰り越すこととなります。作者の皆様にはお待たせしてしまうこととなりますが、どうかご了承ください。

〔第117回作品展各題への補足説明〕(再掲)

第117回の出題は全14題。内訳は占魚亭氏3題、神無太郎氏4題、高坂研氏3題、上谷直希氏1題、変寝夢氏2題、たくぼん氏1題です。

今回はImitatorを使った作品と、透明駒を使った作品が多く、これらのルールの習熟度によって解図時間は大きく変わりそうです。今回は解答募集期間が通常より一ヶ月長いので、この時間を有効に活用して解答をお寄せください。

117-1~117-3は占魚亭氏による「中立駒」と「Imitator」を組み合わせた作品群です。おそらくかなり難しいので一つヒントを出しておき

ましょう。中立駒で王手をするとき、うっかり白玉にも王手を掛ける反則をしやすいのですが、Imitatorを上手く利用すれば、双方の玉に王手が掛かっているように見えて、実は片方にしか王手が掛かっていない状態が作れます。そんな手を上手く使いましょう。

117-4~117-7は神無太郎氏のImitator作品。これらの作品群では中立駒は使われていないので、占魚亭氏の作品よりは解きやすいと思いますが、何しろImitatorですから、ヒントを出しておきましょう。「玉(王)がよく動きます」。

117-8~117-10は高坂研氏の透明駒作品。作者名から予想できるかもしれませんが、117-8は「逆算可能」であることが前提になっていません。つまり逆算を続けてもどこかで行き詰まらないこと(実戦に透明駒はないので「実戦初形に逆算できること」とは違う表現にしました)を条件として透明駒の絞り込みに利用できます。

なお本作品展では特に注釈がない限り出題図が以下の条件を満たすことを仮定します。

- 1) 攻方手番であること
- 2) 標準の駒種、駒数であること
- 3) 二歩・行き所のない駒がないこと
- 4) 相手番の玉に王手が掛かっていないこと

これに当てはまらない場合や、追加の条件を要求する場合は、それが分かるようにして出題しますので、投稿される方は、あらかじめご承知おきください。

117-11は上谷直希氏の透明駒作品。高坂氏と同時に成ったのは偶然ではなく、今年が透明駒誕生から10周年だからでしょう。

透明駒には色々と細かい注意点があります。持駒「なし」は透明駒以外の持駒が「なし」であるという意味だとか、受方の駒台は見えないことになっているとか、詰上り透明駒が持駒に残っても駒余り扱いしない等の細則があるので。疑問点があったら上谷氏のまとめられた「透明駒はじめてガイド」(<http://fairypara.blog.fc2.com/blog-entry-136.html>)を参照してください。

117-12、117-13は変寝夢氏の「All-in-Shogi」と「駒全マネ禁」。前者は詰上りを想定できれば、難しくないでしょう。「駒全マネ禁」は前回に引き続きの登場。このルールでは玉も「マネ禁」の例外でないことに留意して解いてください。

117-14はたくぼん氏の「石囲いシリーズ」の最新作。132手の長丁場ですが、途中で諦めず

粘り強く取り組んでください。

〔第 118 回作品展各題への補足説明〕

第 118 回の出題は 10 題。ツインが 2 つあるので実質は 12 題です（今回から作品数の上限の目安を 12 題としています）。なお、ツイン（組局）は、内容にもよりますが、それぞれの図を 1 題として数えています。

作者は占魚亭氏、高坂研氏、神無太郎氏、変寝夢氏、はなさかしろう氏の 5 名。まずは各氏の投稿作から難度が低いと思われるものを 2 題ずつ選び、残り 2 題も比較的難度が低いと思われるものを選びました。これは 2 月が（うるう年とはいえ）通常の月より短く、その分解答期間も短くなるためです。今回掲載できなかった投稿作は、次回以降に自動的に繰り越しとなりますので、どうかご了承ください。

118-1 及び **118-2** は占魚亭氏による「点鏡」と「二玉詰」を組み合わせた作品です。二玉詰は両取り狙いが定番ですが、点鏡特有の受けて両取りを防がれないか注意してください。

118-3～**118-5** は高坂研氏による透明駒作品。今回の 3 題にはレトロ解析は要求されません。なお、**118-5** はルールから透明駒の種類は攻方玉に確定しています。問題は位置をどうやって確定させるかですね。

118-6 は神無太郎氏による「点鏡」のツイン。攻方玉の位置が少し違うだけですが、それがどのように手順に影響するかご確認ください。

118-7 及び **118-8** は変寝夢氏の作品。**118-7** は初形で攻方玉に王手が掛かっていますが大丈夫。「駒全マネ禁」なのでちゃんと逆王手が可能です。**118-8** は「All-in-Shogi」なので、相手の駒を動かす王手や応手も考えねばなりません。使用駒制限があり、フェアリー駒として Pao(包)が追加されているので、これをどう使うか先に考えると早く解けるかもしれません。

118-9 及び **118-10** は、はなさかしろう氏の推理将棋。普通の推理将棋ではなく、「All-in-Shogi」の推理将棋です。All-in-Shogi 独自の詰上りや逃れ筋を想定して解いてください。**118-10** は条件②が特徴的で、手順の表面だけ見ると普通のルールで指しているように見えるようにします。つまり、All-in-Shogi が関わるのは最終手の詰・不詰の判定だけというわけですね。

解答要項

第 117 回分解答締切:2020 年 2 月 15 日(土)

第 118 回分解答締切:2020 年 3 月 15 日(日)

宛先: **k7ro.ts@gmail.com** (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

解答メールが届かない場合は掲示板 (<http://k7ro.sakura.ne.jp/wait.html>) やブログ (<http://k7ro.sblo.jp/>) でお知らせください。

作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。(原則として毎月 15 日の投稿まで当月号に掲載します。)宛先は解答と同じ **k7ro.ts@gmail.com** へ。メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済みなら出力結果のファイル添付を推奨します。

ルール説明

※WFP のページにまとめ資料 (<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfprule112.pdf>) があるので、それも参考にしてください。

【Imitator】(■または I)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

(補足)

- ・駒を打ったときは動かない。
 - ・Imitator は元の駒と同時に動く
- 参照: WFP75 号「Imitator の紹介」

【中立駒】(「」あるいは「n 駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。
取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる(利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。

5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。

6) 中立駒は行き所ない駒にならない。

7) 中立駒でも自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

→参照：WFP61号「中立駒の紹介」

【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【スタイルメイト】

王手は掛かっていないが合法手のない状態にする。

【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイトにする。

【透明駒】

位置・種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→参照：WFP83号「透明駒の紹介」

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【All-in-Shogi】

双方とも、自分の手番のときに相手の駒を動かすこともできる。敵玉を王手がかかる位置に動かしてもいいし、敵の持駒を打ってもいい。ただし、双方とも1手前の局面に戻すような着手は禁手とする。

(補足)

1) 相手側の駒を動かすとき、自分側の駒を取らせることはできるが、相手側の駒を取らせることはできない

2) 相手側の駒で自分側の駒を取らせたとき、その駒は相手側の持駒となる

3) 自玉を取らせる手は反則

→参照：WFP122号「All-In-Shogiの紹介」

【駒全マネ禁】

直前の指し手の駒種と同じ駒での着手を禁止する。

(補足)

・直前の指し手と同じ種類の駒を動かす手では詰みを回避するしかない場合や、玉を取る手にもこれを適用する。

・成駒と生駒は別種の駒として区別する。

また、直前の手が「成」だった場合、成る

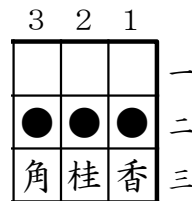
前の駒種で判定する。

→参照：WFP132号「駒全マネ禁詰の紹介」

【石】(●)

不透過・不可侵の領域を表す。

飛び越すことは可能。



例えば左図で、

12香や11香成は不可。

22角や11角は不可。

11桂成や31桂成は可。

【二玉詰】(または【多玉詰】)

複数の玉を使用する。

どの玉に対しても王手放置は禁手。

王手を外せなければ詰み。

→初出；第41回WFP作品展(WFP45号)

【点鏡】

55に関して点対称な位置にある2つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

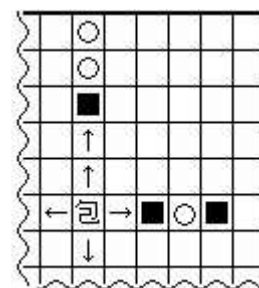
(補足)

・行き所のない駒の禁則は適用されない

→本誌初出：第108回WFP作品展(WFP127号)

【Pao】(包)

中国象棋の駒。動くときは飛車と同じ。駒を取るときは必ず一つ駒を飛び越えて取る。



(■は敵か味方の駒。
○は取るときに動ける場所。矢印は駒を取らないときに動ける場所。)

(補足)

・飛び越える駒は敵味方どちらでもよい。

・グラスホッパーと違って着地場所は飛び越えた駒の隣でなくてもよい。

・成ることはできない。

・2つ以上の駒は飛び越せない。

【推理将棋】

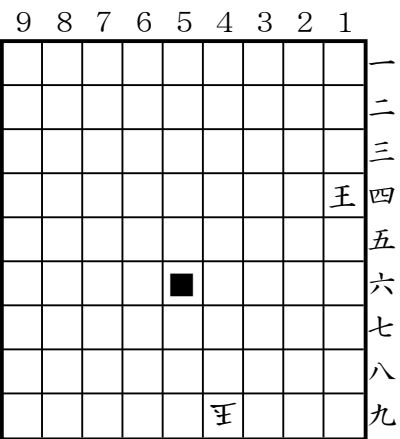
将棋についての会話(または条件)をヒントに将棋の指し手を復元する。

【All-in-推理 Shogi】

推理将棋とAll-In-Shogiを組み合わせたもの。将棋の初期局面から条件に合う手順を求める点では推理将棋と同じだが、合法手や詰・不詰の判定にAll-In-Shogiが適用される。

■ 117-7 神無太郎氏作

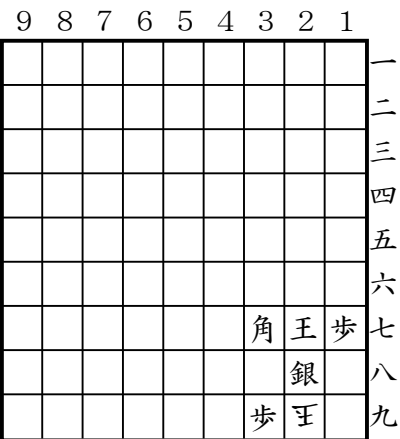
協力自玉スタイルメイト 8手



持駒 金
※■:Imitator

■ 117-8 高坂研氏作

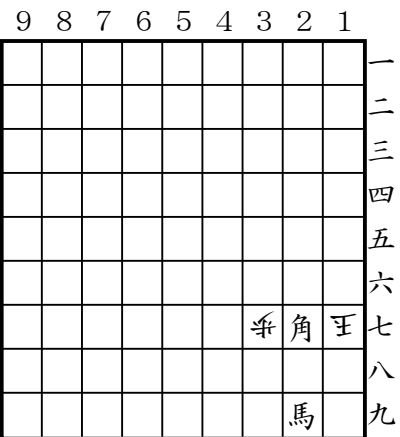
協力詰 1手



持駒 なし
※透明駒：攻方 1 枚、受方 0 枚
逆算可能であることを仮定

■ 117-9 高坂研氏作

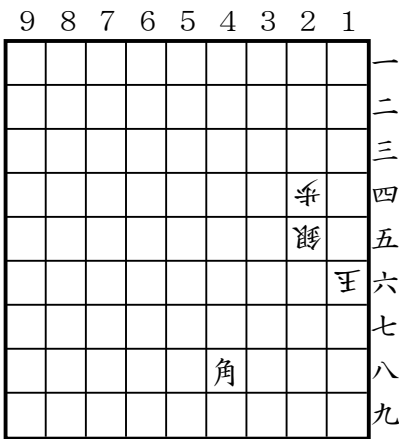
協力詰 5手



持駒 なし
※透明駒：攻方 1 枚、受方 1 枚

■ 117-10 高坂研氏作

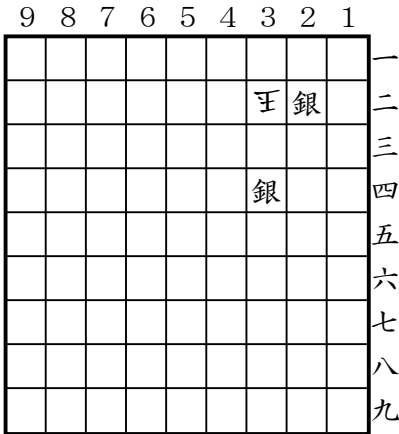
協力詰 5手



持駒 飛香
※透明駒：攻方 0 枚、受方 1 枚

■ 117-11 上谷直希氏作

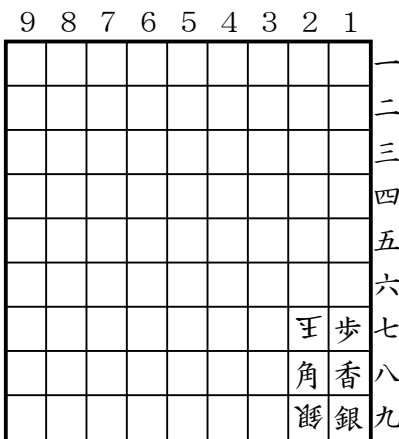
協力詰 5手



持駒 なし
※透明駒：攻方 2 枚、受方 2 枚

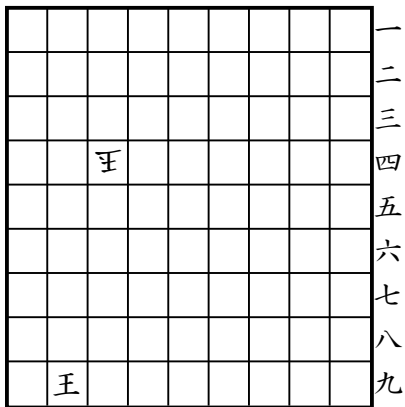
■ 117-12 変寝夢氏作

All-in-Shogi協力詰 5手



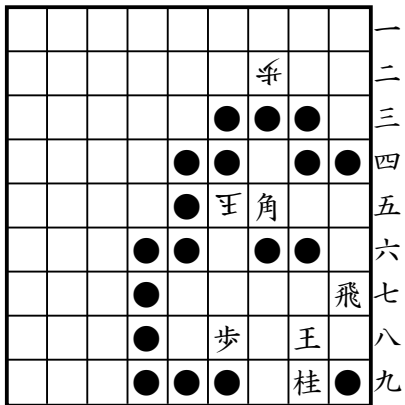
持駒 なし

■ 117-13 変寝夢氏作
駒全マネ禁協力白玉詰 6手
9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 飛金

■ 117-14 たくぼん氏作
協力白玉詰 132手
9 8 7 6 5 4 3 2 1



攻方持駒 なし

受方持駒 歩

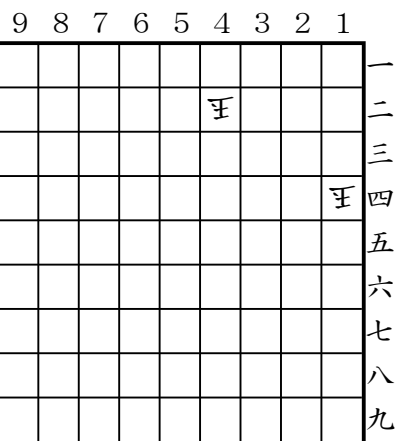
※●:着手不可、不通過



<第 118 回>解答締切:2020年3月15日(日)

■ 118-1 占魚亭氏作

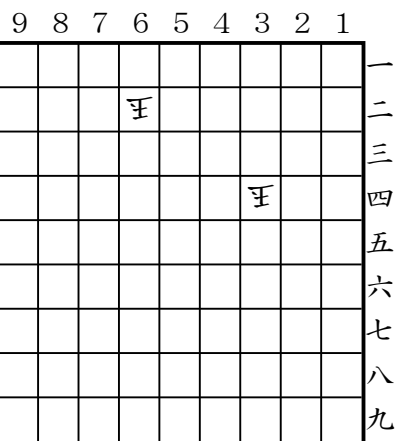
点鏡二玉協力詰 5手



持駒 角

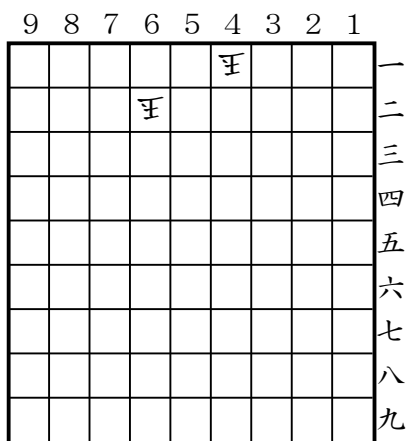
■ 118-2 占魚亭氏作

a) 点鏡二玉協力詰 5手



持駒 金2

b) 点鏡二玉協力詰 5手



持駒 金2

■ 118-3 高坂研氏作

協力白玉詰 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
			王				王	一
							飛	二
			歩					三
								四
								五
								六
								七
								八
								九

持駒 金2

※透明駒:攻方 0 枚、受方 1 枚

■ 118-4 高坂研氏作

協力白玉詰 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
						王		一
			王		金			二
								三
								四
								五
						飛		六
								七
								八
								九

持駒 角

※透明駒:攻方 0 枚、受方 1 枚

■ 118-5 高坂研氏作

協力白玉詰 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
								四
			角					五
				飛				六
								七
								八
						歩	王	九

持駒 金

※透明駒:攻方 1 枚、受方 0 枚

■ 118-6 神無太郎氏作

a) 点鏡協力白玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
							王	四
								五
								六
								七
								八
			王					九

持駒 角

b) 点鏡協力白玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
							王	三
								四
								五
								六
								七
								八
			王					九

持駒 角

■ 118-7 変寝夢氏作

駒全マネ禁協力白玉詰 66手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
						龍		四
								五
								六
								七
歩							王	八
王								九

持駒 歩17

■ 118-8 変寝夢氏作

All-in-Shogi協力自玉詰 8手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		王						王	一
									二
									三
								飛	四
									五
									六
									七
		雀						飛	八
								包	九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし
※包:Pao

■ 118-9 はなさかしろう氏作

All-in-推理 Shogi 問 1

[条件]

- ①6手で詰み
- ②5筋に着手した

■ 118-10 はなさかしろう氏作

All-in-推理 Shogi 問 2

[条件]

- ①8手で詰み
- ②すべての着手は通常将棋ルールの合法手だった
- ③飛の手に対して成の手で応じたことがあった
- ④ひとつの枡の斜め隣への着手が先後通算3手続いたことがあった

以上



推理将棋第124回出題(1/13 修正)

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第124回出題です。はじめての方は どんな将棋だったの? - 推理将棋入門 をごらんください。

解答、感想はメールで2020年2月10日までに TETSU まで (omochabako@nifty.com) メール の 題名 は 「推理将棋第124回解答」 でお願ひします。

推理将棋第124回出題 担当 Pontamon

2020年、明けましておめでとうございます。本年も推理将棋をよろしくお願ひいたします。

124回は恒例の年賀推理特集をお届けします。年賀推理作品の投稿は1作でしたので担当から2題を出題させていただきます。

初級は緑衾さんからの31手。年初の問題を軽く解いて勢いをつけましょう。

中級は担当からの20手ですが、19手は2筋の着手なので指せる手は限られます。

上級は11手と手数は短いですが難易度は一番難しいと判断して上級としました。

■本出題

124-1 初級 緑衾 作

銀世界 31手

先手の銀着手は12回、後手は少なくとも11回銀を動かしますが詰み形は?

124-2 中級 Pontamon 作

2020 と言えば 20手

後手の着手は2筋だけ。不可解な22の後手角と23の先手歩の謎を解こう。

124-3 上級 Pontamon 作

2020年の指し初め 11手

金銀同の3手連続着手と1筋連続着手の絡み合った条件を紐解きましょう。

124-1 初級 緑衾 作

銀世界 31手

「一面に雪が積もってきれいだね。あれを見ながら指し初めをしようか。」

私は先手で令和2年に因んで最初の3手を2筋に指すよ。

その後は敵玉を詰ませる手以外はひたすら左

銀を動かすことにするよ」

「じゃあ、後手の僕は元旦に因んで右銀を 11 手連続で動かすよ。

また、4 手目を 6 二銀にして、歩と金の手は指さないことにするよ」

「予定通り進んで私が詰ませて勝ったね。

手数を数えてみると 31 手なのか。よし平成 31 年を惜しんでいることにしよう」

(条件)

- ・31 手目で先手が詰ませた
- ・先手は最初の 3 手を 2 筋に指し、その後敵玉を詰ませる手以外は左銀を移動させた
- ・後手は右銀を 11 手連続で移動させた
- ・後手は 4 手目を 6 二銀として歩と金の手がなかった

1 2 4-2 中級 Pontamon 作
2020 と言えば 20 手

「明けましておめでとう」

「おめでとう。今年は 2020 年、20 と 20 と言え

ば？」

「そりゃ、20 枚対 20 枚の駒で戦う将棋だよ」

「今年は令和 2 年だから、2 筋の着手だけで指し初めと行くか！」

「では、お願いします」

「互いに駒成りすることもなく、この 20 手目で詰んだな」

「参りました。ルールを忘れて 2 筋以外の手を 1 手指してしまっ

てごめん」
「僕は歩で角を取ったけど、23 へ不成した歩で 22 の角を取って

(条件)

- ・駒成なく 20 手で詰んだ
- ・先手の 1 手以外は全て 2 筋着手
- ・後手は歩で角を取り、先手は 23 へ不成した歩で 22 の角を取らな

1 2 4-3 上級 Pontamon 作
2020 年の指し初め 11 手

「明けましておめでとう」

「おめでとう。早速、指し初めするか」

「じゃ、お願いします。2020 年はどんな年にな

るかね」

「東京オリンピックでは日本選手に金銀銅のメダルを沢山取って欲しいね」

「おっと、駒成はなかったけど、この 11 手目で詰みだ」

「君は 1 月 1 日らしく 11 手とか 1 筋への大駒の連続着手があ

(条件)

- ・駒成なく 11 手で詰み
- ・後手は金、銀、同の順の着手を連続で指した
- ・先手は 1 筋への大駒の連続着手

ちょっと早い

2020年年賀詰作品展解答発表

解答は4名の方から頂きました。

〔解答成績〕(敬称略)

○:正解 ×:誤解 -:無解

解答者名	1	2	3	4	計
橋本孝治	○	○	○	○	4
占魚亭	○	-	○	○	3
一乗谷酔象	×	○	○	○	3
変寝夢	-	-	-	○	1

2番に余詰が出てちょっとバタバタしました。申し訳ありません。

1番 神無太郎作

協力自玉スタイルメイト6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			■						一
								玉	二
									三
							王		四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角

※■: Imitator

玉以外はすべて中立駒

【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイトにする。

【Imitator】(■)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。このImitatorが駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

【中立駒】(「」あるいは「n駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

【ヒント】

昨年に続きいきなりのImitatorで怯む方も多くいると思いますので大盤振る舞いのヒントで

す。後手玉は4手目13玉と動き、最終図は元旦になります。

51n角 42n飛 同n角生[I52] 13玉[I41]

43n飛 11n銀 まで6手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					■			銀	一
					角			玉	二
					飛			王	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

作者

mzaで一度に扱えるフェアリー駒は最大7種類なので、様々な7種類のパターンで検討

★例えば最終手11n角ならどうなるのか考えますと、53n飛生[I51]とか動かせます。じゃあ11n金は・・・21n金[I51]とか。11n香(桂・歩)は22玉[I51]。21n金(角銀)は逆王手だし、逆王手にならない駒だと53n飛[I51]等動けます。結局最終手11n銀と打った最終図がスタイルメイトになっています。22n銀と動かすと13玉の利きに、43n飛を横に動かすと11n銀の利きに、42n角を動かすと13玉の利きに入ります。もちろん22玉、23玉もダメです。Imitatorの解図の難しさは、これが詰んでいるとかスタイルメイトになっているかどとっさに判別し難いところにあります。普通の詰将棋の詰み型は皆さん頭に入っているので苦になりませんがImitatorの詰み型を頭に入れるまで一体何題作品を解かないといけないのだろう・・・?

ヒントを大判振る舞いで出しましたが、解答数は少なかったです。とはいえ詰上りは「11」で年賀詰に持って来いの作品でした。

橋本孝治

大増量されたヒントのおかげで解答にたどり着けたと思うのですが、それでもまだ解答に自信が持てません。Imitator恐怖症の克服にはまだまだ訓練が必要のようです。

変寝夢

素面でも相当無理です。最終2手でも相当ヤバいです。最終手11以外に打つと不詰、ということが狙いなのでしょう。

占魚亭

炙り出しになるとは思わなかったです。

一乗谷酔象

51角 42角 同角不成[i52] 13玉[i41] 22角 32飛まで6手。※これでスタイルメイトになっているかどうか。Imitatorルールは苦手です。

★最終手、王手回避できていないですね。Imitatorルール得意な人いないんじゃないでしょうか？(占魚亭さんくらい?)

2番 Pontamon 作 (2020/1/2 余詰修正) → (1/3 余詰がありましたので再修正) → (1/20 修正)

新春特別ルール 12手

はじめに

3種の大駒が連続で一直線に並んで詰む最短は縦並びの9手詰。12手詰ともなると、縦、横、斜めでの詰み形が出てきます。

会話

「御隠居、明けましておめでとうございます」
「おめでとう。新春特別ルールで指し初めと行くか」
「どんなルールにしますか？」
「めでたい新春なんだから、初王手で詰ますこと」
「詰まない王手は禁止ですね。」
「あと、着手は新しい地点へ指すこと」
「ちょっとそれは無理ではないですか」
「それじゃ、今年令和2年だから、同じ地点の着手は2回まで許すことにする」
「特別ルールはそのくらいでいいですかね」
「何を言う、今年十二支最初の子年なんだから十二支に因んで、わしゃ12手で詰めてみせるぞ」
「では、よろしくお願ひします。」
：
「予定通り、この12手目の初王手で詰みだ」
「振り返ると、歩頭への着手が4回ありましたね」

「振り返ると、特別ルールの効果で1回着手の

筋は4つ。あと、歩頭への着手が4回ありましたね」

「最後は、後手の強い大駒3種が(横)一直線に連続して並んでいて壮観な眺めじゃ」

「今年のオリンピックではメダル独占の表彰式を見たいですね」

条件

- ・12手目の初王手で詰み
・終局時、後手の3種の大駒が(横)一直線に連続して並んでいた(「後手の」を追加しました)
・歩頭への着手が4回
・同じ地点の着手は2回まで
・1回着手の筋は4つ(追加)

作意解

76歩 34歩 66角 同角 68飛 86角
58玉 68角不成 56歩 46角成 55歩 56飛 迄 12手

詰上図

後手の持駒：なし

9x9 board diagram showing pieces like King, Knight, Bishop, Pawn, and King on various squares.

持駒なし

★当初の出題で、私が余詰解を見つけて作者に連絡しました。その解は、

76歩 34歩 66角 同角 36歩 46角 58王 28角生 56歩 46角成 55歩 56飛 迄 12手

ですがこの順では、58玉、36歩、56歩～55歩の順序が非限定。8手目も成生非限定です。ほぼ作意に近い解でした。

この時点で橋本さんより解答が届きました。

橋本孝治

76歩 34歩 44角 同角 36歩 46角 37桂 35角上 48玉 26角 58金左 37角左成 まで 12手

条件の解釈に迷いました。まずは「3種の大駒」という言葉に引っ掛かったのですが、これは成駒と生駒を区別するという意味に解釈するしかないでしょうね。次に「歩頭」の意味。これは相手の歩の前なのか、自分の歩の前も含むのか？この解答では前者の解釈を採用しています。「同じ地点の着手は2回まで」も迷いました。一度同じ地点の着手を2回してしまったら、別の地点で同じ地点の着手をして良いのかどうか？今回の解答は44と37の2箇所と同じ地点の着手があるので、もしそれがダメなら考え直さなくてははいけません。というわけで、何だかスッキリしないままの解答です。

★余詰解と問題文の解釈について疑問を投げかけておられます。推理将棋については問題文の解釈が作者と受け手側で微妙に異なるケースがあります。その部分でミスディレクションに誘導するというケースもありちょっと気になる部分です。受け手側がそう解釈したのであればそれはそれで正解にすべきではないかと思いません。

作者から修正案が届き1月2日に修正を載せました。修正内容は

- ・1回着手の筋は4つ

を追加というもの。

そして載せた当日に一乗谷酔象さんより以下の指摘がありました。(2つ目は橋本さんの解と同様の筋)

▲76歩 △34歩 ▲44角 △同角 ▲58玉 △66角 ▲48銀 △24角 ▲59銀 △54歩 ▲48飛 △57角左成 まで12手。

10手目52王等(4筋か5筋の手)も可。非限定多数あり。

▲76歩 △34歩 ▲44角 △同角 ▲36歩 △46角 ▲37桂 △26角 ▲48玉 △84歩 ▲58金左 △37角左成 まで12手。

10手目14歩, 94等(1, 6, 8, 9筋の手)も可。非限定多数あり。

★そして修正後に橋本さんから解答がありました。

橋本孝治

「歩頭」を自分の歩の前も含むと解釈すると非限定だらけになりそうですが、一応その解釈で解答します。

76歩 34歩 66角 同角 48飛 24角 58玉 46角 68銀 92香 59銀 57角左成 まで 12手

一乗谷さん、橋本さん共に大駒が斜めに並ぶという手順でした。

そして1月3日に再修正しました。

終局時、**後手の3種の大駒が一直線に連続して並んでいた** (**「後手の」を追加しました**)

★3種の大駒が連続で並んで詰上げる形で、12手となると、縦横斜めと詰型がありますが、本作は横に並ぶ形。先手王と1間空いているので見た目もすっきりしたきれいな詰上りです。何故だか私はこの詰上りが第一感だった(変?)のですが、通常は斜めを考えるのかもしれない。

と再修正図で大丈夫かなと思ったところ。解答締切最終日に再び一乗谷酔象氏より再び・余詰め指摘が。

一乗谷酔象

76歩 34歩 66角 同角 68飛 86角 58玉 68角不成 16歩 46飛 15歩 57角上成 まで12手。

※大分考えたが、作意にたどり着けず。再修正も余詰みのようです。

- ・12手目の初王手で詰み(57角上成)
 - ・終局時、後手の3種の大駒が一直線に連続して並んでいた
(46飛、57馬、68角)
 - ・歩頭への着手が4回(66角, 66同角, 86角, 46飛)
 - ・同じ地点の着手は2回まで(66, 68が2回)
 - ・1回着手の筋は4つ(3, 4, 7, 8筋)
- 余詰。9, 11手目は遊び手なので、"1回着手の筋は4つ"を満たせばよい。

たとえば 16 歩～15 歩の 15 歩の代わりに 36 歩, 75 歩, 86 歩なども可

★この旨作者に連絡しましたら以下の返信が届きました。

Pontamon

再修正の条件でも余詰みました。粗検、申し訳ありません。

結果稿で掲載する最終案は最初の修正+「横」の追加とさせていただきます。

条件

- ・12 手目の初王手で詰み
- ・終局時、3 種の大駒が横一直線に連続して並んでいた（「横」を追加）
- ・歩頭への着手が 4 回
- ・同じ地点の着手は 2 回まで
- ・1 回着手の筋は 4 つ（条件追加）

★私も出題前に解図をすれば良かったのですが（私の力で余詰が発見できたかどうかは分かりませんが）、出題後だったので、余詰、修正の繰り返しでちょっとバタバタしてしまいました。年賀詰で余詰はちょっと残念なスタートでした

3 番 神無七郎作

AntiAndernach協力詰 53手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
										五
					王	角	銀			六
										七
										八
										九

攻方持駒 歩3
受方持駒 なし

旧年中は大変お世話になりました
今年もよろしく願います



【AntiAndernach】

駒を取らない盤上の移動（駒を取る及び持駒を打つ以外の着手）を行うと、着手後に相手の駒となる（玉を除く）。

[補足]

・細則は Andernach と同様で「駒取り」を「駒を取らない盤上の移動」に読み替える。

- 1) 駒を取らない盤上の移動で二歩になる場合、相手の駒にならない
- 2) 駒の向きの変換は成生の選択の後に行われる
- 3) 駒を取らない盤上の移動では、相手陣二段目への桂の不成、一段目への桂香歩の不成が可能（二歩の例外を除く）

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

57 歩 67 玉 68 歩 同玉 56 歩転 57 歩成転
66 と転 57 歩 同角 77 玉 66 角 76 玉
77 歩 87 玉 88 歩 同玉 76 歩転 77 歩成転 86
と転 77 歩 同角 97 玉 86 角 87 玉
88 歩 76 玉 77 歩 67 玉 68 歩 同玉
76 歩転 77 歩成転 66 と転 77 歩 同角 57 玉
66 角 47 玉 48 歩 38 玉 39 歩 同玉
47 歩転 48 歩成転 37 と転 28 玉 37 銀 27 玉
36 銀 37 玉 38 歩 46 玉 47 銀打 まで 53 手

詰上図

上手の持駒：歩

										九
										八
										七
										六
					角	王	銀			五
							銀			四
										三
										二
										一

持駒 なし

★AntiAndernach は駒を取る攻めにはいいのだけれど、駒を取らない移動は相手の駒になるので異様に攻め難いルール。移動で王手しようとすると開き王手しか出来ない。序は開き王手の形を作り 56 歩転と開き王手し、そこからその歩がと金に成って再び転。今度はと金になった

ので 66 へ移動開き王手でまたまた転。歩合を取りと金を取って 12 手目 76 玉。

上手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
		王	角			銀	銀		六
									七
									八
									九

持駒 歩3

なんと初形から 2 筋左に移動しました。この 76 玉が曲者で、作者コメントにもありますが、ここで 67 玉とすれば 68 歩、56 玉、57 歩、47 玉 48 歩、同玉と作意より早く右边に来ることが出来ます。しかしながらこれが罠なのだから恐ろしい。この順では手が進みません。76 玉以下遠回りして左から折り返すとき 88 歩の一步が必要で、持駒歩 2 枚で右に追います。2 枚で大丈夫かと心配しますが、段を 1 段下げれば大丈夫。この段を一段下げることが出来るのが遠回りの効果です。この順で 36 銀を取って銀打ちまでとなります。七郎さんは今回の氾濫でも簡素形の AntiAndernach 趣向作を発表されていましたが、いろいろと手筋を発掘されているのでしょうか。ルールならではの趣向は見ていて楽しめると思います。

作者

歩の運用で足場を作って角を移動させる趣向作。歩が 3 枚あるので折り返すことができますが、12 手目にすぐ 67 玉と折り返すと上手くいきません。一回遠回りしてから折り返すことにより、26 銀の 37 への利きを避けることができる仕組みです。収束が少し長い図も考えたのですが、簡素な本図が優ると判断しました。

参考図 神無七郎作

AntiAndernach 協力詰 57 手

持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
				王	角	科	銀	歩	六
									七
									八
									九

持駒 歩3

57 歩 67 玉 68 歩 同玉 56 歩転 57 歩成転
 66 と転 57 歩 同角 77 玉 66 角 76 玉
 77 歩 87 玉 88 歩 同玉 76 歩転 77 歩成転
 86 と転 77 歩 同角 97 玉 86 角 87 玉
 88 歩 76 玉 77 歩 67 玉 68 歩 同玉
 76 歩転 77 歩成転 66 と転 77 歩 同角 57 玉
 66 角 47 玉 48 歩 38 玉 39 歩 同玉
 47 歩転 48 歩成転 37 と転 48 歩 同角 28 玉
 37 銀 27 玉 36 銀 16 玉 17 歩 同玉
 18 歩 16 玉 28 桂 まで 57 手

★発表作のほうが最初から最後まですっきりした印象で良いと思います。

変寝夢

本当にどんなルールでも趣向が作れるんだなあと痺れました。このルールで趣向とかは相当しんどいはずなのに。やはり打の手がポイントになるようですね。

占魚亭

趣向味溢れる転の部分が上手いですね。

一乗谷酔象

“歩転”と“と転”で角を動かす軽快な趣向を楽しめました。玉を 7 筋で折り返すと右边で頓挫する。

★ 皆さん、趣向的な手順を十分堪能されたようです。

4番 たくぼん作

強欲協力詰 26手 (受先)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
		歩							三
金	金	歩	金	歩					四
			銀						五
		銀							六
	王	歩	歩						七
歩		歩	香						八
		金							九

持駒 なし

【作者コメント】

旧年中はお世話になりました。今回は早くから取りかかったものの苦戦。「ネ」が隅（スミ）ということでネズミです。手順は簡単で駒を動かせば詰むはずです。受方から始めて下さい。

【強欲】

駒を取る手を優先する。

98玉 87銀 同玉 78金 同玉 79香 67玉 76銀 同玉 77香 同玉 86銀 同玉 85金 同玉 84金 同玉 74金 同玉 63銀 73玉 62銀生 同玉 53歩成 51玉 52とまで 26手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王					一
				と					二
									三
									四
									五
									六
									七
				香					八
									九

持駒 なし

★受先という苦肉の作で何とか形にした一作。気持ちよく解いて頂ければ幸いです。実は予備作でもう1作ありました。

強欲協力詰 26手 (受先)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
				銀					二
		と	歩	歩	歩	銀			三
					王				四
					香				五
				科	香	角			六
		銀		歩		金			七
				金					八
									九

持駒 なし

形はこちらの方が良いのですが、同じく受先でかつ煙らない（詰上り4枚）というどっちもどっちという作品。（解いてみて下さい→解は最後に）

橋本孝治

最後にやっと年賀詰らしい作品が登場して一安心。「ネ」の字からいとも簡単に煙詰になるとは、さすがの職人技ですね。

変寝夢

般若型の詰め上がりは予想どおりでした。銀の打ち場所がポイント

占魚亭

悩むことなく、気持ちよく解けました。

一乗谷酔象

暗算でトライしたらあっさりでした。

〔総評〕

橋本孝治

今年は普通詰将棋の年賀詰を作るのにやや苦戦して、解答への着手が遅れてしまいました。こういう時はあまり難しい作はありますがたかないですね。年賀詰としては4番が最適の難度だと思います。

変寝夢

正月早々 imitator で年賀状が届いたら、困っちゃいますね。

推理将棋第122回出題解説

推理将棋第122回解説 担当 Pontamon

第122回は難問揃いでしたが20名から解答をいただきました。難問だった理由のひとつは3題とも視点の転換が必要だったからでしょう。

3ヶ月連続での余詰となった上級はヒントが足りなかったようで、余詰解だけの解答が目につきました。

122-1 初級 Pontamon 作
同じ対局? 9手

「7手目と9手目は同の手を指して9手で詰めたよ」

「その対局は最近聞いた記憶があるなあ」

「2手連続で大駒着手があったから君が聞いた対局とは違うと思うよ」

「2手連続と言うと、先手の着手の直後の後手着手か後手の着手の直後の先手着手ってことだね」

(条件)

- ・9手で詰み
- ・7手目と9手目は同の手
- ・2手連続での大駒着手があった(先後または後先の順の2手)

出題のことば (担当 Pontamon)

同が付く手を2連続で指すパターンを整理しよう。

追加ヒント

2手連続の大駒着手は後先の順で、同の着手はふたつの駒で1回ずつです。

推理将棋122-1 解答

▲76歩、△52飛、▲55角、△62玉、▲75歩、△74歩、▲同歩、△73桂、▲同角成まで9手

(条件)

- ・9手で詰み
- ・7手目と9手目は同の手(7手目▲74同歩、9手目▲73同角成)

・2手連続での大駒着手があった(2手目△52飛、3手目▲55角)

詰上り図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇		將	将		将	將	将	皇	一
			王	王			皇		二
歩	歩	馬	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
		歩							四
									五
									六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 桂歩

「7手目と9手目は同の手」の条件は先月と同じで今回は「2手連続での大駒着手」がもうひとつの条件。解図の糸口は、この大駒着手2手連続になりそうです。

121-1では馬が連続で同の手を指しましたが、先手が大駒着手を連続で指すと、後手の大駒着手と合わせると3連続の大駒着手になってしまいます。そこで今回は▲22角不成のあとに31の銀を取ってその銀で詰めれば、先後での大駒着手を連続2回でとどめることができそうです。

参考1図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	将	將	将			角	将	皇	一
			王	王	全				二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
						歩			四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 角金

参考1図は、初手から▲76歩、△34歩、▲22

角不成、△52 玉、▲31 角不成、△62 飛、▲51 銀、△42 金、▲同銀成で詰めた局面ですが、7 手目が同の手にはなっていません。同の着手を連続でするために、▲22 銀、△33 桂、▲同銀、△42 金、▲同銀成にすると 11 手になってしまいます。

ここは、着手をじっくり検討してみましょう。9 手詰なので先手着手は 5 手で、大駒着手をするならやはり角なので初手は角道を開ける▲76 歩。7 手目と 9 手目は同の着手となると、残るは 3 手目と 5 手目の 2 手なので普通に考えれば 3 手目が角着手です。そうすると 2 手目か 4 手目が後手の大駒着手になるはずですが、5 手目は盤上の駒の着手か、大駒以外の持ち駒を打つ手が考えられますが、3 手目の角の着手で取れる駒は歩か角なので 5 手目に駒を打つなら角になります。この場合、後手の大駒着手が 4 手目だと 3 手目～5 手目の 3 連続になるので駄目です。かと言って、2 手目に後手が大駒着手をすると、3 手目で先手は▲22 角とはできないので、結局 5 手目は盤上の駒を動かす手になります。

参考 2 図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	駒	王		王	駒	科	皇	一
			馬		王		馬		二
歩	歩	歩	歩		歩	歩	歩	歩	三
			歩						四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 飛

参考 2 図は、初手から▲76 歩、△62 飛、▲44 角で 2 手連続の大駒着手にして 4 手目△54 歩の後に▲62 角成で飛を取ります。この 5 手目が王手になってしまうので 6 手目で△32 玉と逃げた局面です。王手を掛けると玉を逃げないといけないので、7 手目に同の着手ができるように駒を差し出す手を指せません。また、後手の駒を 5 手目に取ったとしても 7 手目は同の着手なので持ち駒を使う暇はありません。

つまり、先手は 7 手目と 9 手目が同の着手なので駒を取りますが、それ以前の 5 手目までも駒を取っても使えず、後手玉に王手を掛けることはできないこととなります。

では、初手▲76 歩、3 手目角、5 手目盤上の駒移動で 7 手目に同の着手を実現できるのはどんな手順があるでしょう。3 手目の角着手を中段でとめておけば、△44 歩、▲同角とか△84 歩、▲同角とか△64 歩、▲同角が可能ですが、44、64、84 の地点から 9 手目も同角の手で後手玉を詰ます形はなさそうです。また、これらの▲同角は最速では 5 手目に指すことができるので、7 手目に▲同角とするには 5 手目に何か別の手を指す必要があります。詰みに関係しそうな手で何を指せばいいでしょうか？▲77 桂を出動しても敵陣までは持っていきそうにありません。あとは初手に突いてある歩くらいしかありませんが、これも敵陣へ行くのは 9 手目になってしまいます。9 手目に▲73 歩成で歩を取っては詰みにはなりません、6 手目に後手が△74 歩とすれば 7 手目は▲74 歩ではなく▲74 同歩にでききるのに気付きます。続けて 8 手目の△73 桂に▲同歩成は可能ですが、玉が 72 に居たとしても桂が居た 81 地点が空いているので玉に逃げられてしまいます。もし、△73 桂を▲73 同角成で取った場合だと、62 に玉が居て 52 地点が埋まっていれば玉は 51 へ戻ることもできず詰みになります。73 の馬の支えは 7 手目に▲同歩とした 74 の歩が担当します。

52 を埋める駒を飛にすれば、3 手目の先手の角着手と合わせて 2 手連続の大駒着手も実現できます。飛を振ってからでないと△62 玉を指せない、初手から▲76 歩、△52 飛、▲55 角、△62 玉になります。5 手目からの▲75 歩、△74 歩、▲同歩、△73 桂、▲同角成で詰みました。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

Pontamon (作者)「先月の初級は簡単に解いてしまって、8 手目が駒の直進でない場合の手順は探られていないことを期待しての出題です」

渡辺「トランスワープを使わないなら、手数から単騎か自陣駒を活用かしかない。単騎は「はてるま型」しかなく同で終わらないので自陣駒。手数から **76** 歩を活用するしかない。」

■じっくり論理を組み立てると手順が見えてきます。

小山邦明「収束形が思いついたので早く解けました。」

■収束形が閃くと最速で解けますね。

リーグ戦ファン「解き易い好作、なはずが…「角以外の先手の駒が敵陣に届くには最速は桂、3・5・7筋攻めいずれも後手に6手必要、だから角二枚あるいは単騎詰」と思い込み、2時間ハマりました。冷静に考えれば **75** 歩も **77** 桂と同じ手数で敵陣に行けるやないかい……このへんはブランクの悲しさでしょうか。」

■まったくの推理将棋断ちだったのでしょうか。すぐに勘は戻るでしょう。

斧間徳子「条件が単純な「後手は大駒を動かした」ではないことから先手 **76** 歩～**22** 角成～角打ちの筋ではないことがわかり、小駒を使った作意順に思い当たる。詰パラ **2011** 年 **1** 月号の **No.97** (野口大樹氏作) と同一手順だが条件が異なるので問題なし。」

■「後手は大駒を動かした」の条件を使うと「5手目は角」の追加とか「後手は大駒を動かしたがその直前・直後の先手着手は小駒だった」にする必要があります。

NAO「シンプルな手順がありましたね。**121-1** のイメージが残っており、**22** 角成以下の手順に捕まって悩んでしまいました。」

■視点を变えて、逆サイドからの攻めも要検討。

諏訪冬葉「**3** 手連続」でないから角を取る手は使えない。となると戦力不足……と思ったらまた歩だった。」

■後手陣まで行かなくて良かったので歩で間に

合いました。

のくせに「大駒の手が **3** 手連続ではない＝小駒の出番、と推測はできましたが、先月の残像のせい **73** に全く意識が向かず大苦戦。」

■「先月と似た攻めではないはずだから左から」と考えてあっさり解かれてしまうか、2ヶ月連続での出題は出題側も掛けに出ています。

ほっと「この詰上りは手順前後や非限定が生じやすいが、うまくまとまっている。」

■飛の代わりに△**52** 金左があったり、△**94** 歩、△**93** 桂で桂の利きを外す手順もありますが、同の連続の条件で手順前後は6通りだけになっています。大駒連続条件で限定できました。

緑衾「手数の割にはかなり難しかったです。センスのない筋をさんざん考えてしまいました。」

■まさか **121-1** で解説した詰まない手順も考えてしまった？

RINTARO「**76** 歩 **34** 歩 **22** 角成迄は必然と考えた私が馬鹿だった。コペルニクスの転回が必要だった。」

■はい、視点の転換が必要でした。

たくぼん「**7** 手目と **9** 手目は同の手ということで、同じ駒で取るしかないと思っていましたが、初手を活かした見事な手順が潜んでいましたね。初級ではないと思います。」

■**121-1** の条件や出題のことばを比べて、ヤマを張る手もありました。

変寝夢「ソフト回答です。他の条件に3手目2角、7&8手目大駒を追加してみたが、不詰回答。自力の解図では、角を奪って15に打ち24歩、同角33桂、同角成をイメージしていたので大誤算。試行錯誤の上何とか発見してくれたが、これで初級とはハードルが高いですなあ。結局プラス条件初手76歩2手目飛3手目角で500万局面28分でした。」

■122-2の10手詰の所要時間と比べても初級が難しかったということのようです。

神在月生「条件から、単騎詰なし～3手目角取り&5手目角打ち・4手目玉等の手は飛取りが無理～4手目飛&6・7手目玉の手はなし、で種々検討も良案見つからず。何かの思い違いがあるのか??？」

■121-1の残像効果で3手目角取りと考えると、そこから発想の転換が無かったようです。

はなさかしろう「思いつきにくい手順を好条件で。これで限定できてしまうのが素晴らしいです。」

■非限定や手順前後を排除できる手順にスリムアップできた結果です。

飯山修「わかりません」

■単に9手だから初級というのは駄目ですね。初心者でも解くことができるということで94問題が作られたそうなので、9手で4条件は初級、3条件は中級、2条件は上級にするという基準はどうか。でも1条件の易問もあるなあ。

占魚亭「この形だったのか!!!」

■このような形を総称して何と言うのかな。串刺しではないな。

S.Kimura「角2枚で迫ることばかり考えていたので、ヒントで情報が増えた気がしませんでした。その後、盤上の駒を使う発想がようやく浮かんだものの、最初は桂を跳ねていたので、7筋の歩を伸ばしても間に合うことに気付くまでにしばらくかかりました。」

■思いのほか難しかったというのが分かったのは締め切り後なので、初級もヒントが足りていなかったみたいです。

正解：15名

渡辺さん 小山邦明さん リーグ戦ファンさん
斧間徳子さん NAOさん 諏訪冬葉さん の

くせにさん ほっとさん 緑衾さん
RINTAROさん たくぼんさん 変寝夢さん
はなさかしろうさん 占魚亭さん .Kimuraさん

1 2 2-2 中級 NAO 作
龍に追われる 10手

「たったの10手で詰まされたって？」
「初の成る手を指されたので慌てて玉を逃げたんだけど、龍で連続王手を掛けられて参ったよ」

(条件)

- ・10手で詰んだ
- ・初の成る手に対して玉の手で応じた
- ・龍で連続王手を掛けた ※

※龍の着手で連続王手を掛けたという意味です。

出題のことば (担当 Pontamon)

連続王手ですので龍での王手は2回以上です。

追加ヒント

最初の龍での王手は飛を取っての王手です。

推理将棋 1 2 2-2 解答 担当 Pontamon

▲76歩、△32飛、▲33角不成、△同飛、▲88銀、△37飛成、▲68玉、△28龍、▲79玉、△88龍 まで10手

(条件)

- ・10手で詰んだ
- ・初の成る手に対して玉の手で応じた (6手目△37飛成、7手目▲68玉)
- ・龍で連続王手を掛けた (8手目△28龍、10手目△88龍)



詰上り図

後手の持駒：飛角銀歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	龍	王	王	龍	科	皇		一
							馬		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
									四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩		歩	歩	七
	龍								八
香	桂	玉	金		金	銀	桂	香	九

持駒 歩

後手が龍を作るには最短で6手なので、そこからの龍による連続王手2回だとすると丁度10手で良さそうなのです。最初の成る手を▲33角成にすると△同飛ではなく玉を逃げる手を指さなければいけないので、参考1図のように12手掛かってしまいます。後手の玉が逃げる手に乗じて先手玉は49へ移動して龍による連続王手を可能にしているのですが、この2手のために2手オーバーです。

参考1図

後手の持駒：角銀歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	龍	王		王	龍	科	皇	一
			玉				馬		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
									四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩		歩	歩	七
			金	金			飛		八
香	桂	銀		玉		龍	桂	香	九

持駒 歩

参考1図の手順：▲76歩、△32飛、▲33角成、△62玉、▲58金右、△33飛、▲68金上、△37飛成、▲49玉、△38龍、▲59玉、△39龍

3手目を▲33角不成とすれば4手目は△同飛ができるので6手目に△37飛成が可能です。

しかし、2回の龍の王手ができるように▲49玉を指している68地点の玉退路を塞ぐ手ができなくて参考2図のように失敗してしまいます。

参考2図

後手の持駒：角銀歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	龍	王	王	龍	科	皇		一
							馬		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
									四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩		歩	歩	七
				金			飛		八
香	桂	銀	金	玉		龍	桂	香	九

持駒 歩

参考2図の手順：▲76歩、△32飛、▲33角不成、△同飛、▲58金右、△37飛成、▲49玉、△38龍、▲59玉、△39龍

初の駒成に玉の手で応じていて、龍の着手での連続王手も実現してはいますが詰んでいません。

そこで、5手目から、▲38金、△37飛成、▲68玉と逃げて、△38龍に▲59玉と戻れば△49金で詰みですが龍での王手は1回だけになるので失敗です。

なお、▲76歩、△32飛、▲33角不成、△同角、▲46歩、△15角、▲48玉、△37飛成、▲59玉、△57龍までの両王手での詰みの手順では、8手目の△37飛成での王手が龍での王手になっているため、10手目の両王手の片方の△57龍と合わせて龍の連続王手との主張もありそうなので、出題のこぼれで補足だけでなく注釈を追加させていただきました。

8段目の1回目の龍による王手に対して59へ戻るのではなく玉が逃げる場所を先に作っておく手順がありそうです。それができるのは5手目なので、7手目に68へ行った玉が逃げる場所として79地点を空けておく▲88銀を5手目に指しておく良さそうです。

5手目から▲88銀、△37飛成、▲68玉、△8段目の龍、▲79玉となれば、68～88のどこかの地点への龍移動が2回目の王手になります。盤全体を眺めると、22の角が88へ利いているので、10手目は△88龍で良さそうです。この龍を▲同飛で取られないために、1回目の龍での王手は△28龍で飛を取り払っておきます。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

NAO (作者)

「条件文が会話と一致していなかったのは失敗。10手では先手の飛成がまずないので、含みに残すまでもなく

- ・初めて成る手に対して先手は玉を動かした
 - ・後手は龍を動かして連続王手を掛けた
- このように条件を明示すべきでした。」

渡辺「序盤の4手は条件から決定するのだがその後がバカ詰を解いている気分。飛を成っての王手も相手からみると「龍で王手を掛けられている」ので「龍を動かして王手」と言う方が良いですね」

■出題のことばでの補足ではなくて、条件で明示すべきでした。

小山邦明「飛が早く成るためには4手目までは必然で、5手目の8筋への銀の移動が意表を付く面白い手でした。」

■先を見越していなければ指せない手です。

リーグ戦ファン「超有名な8手単騎詰の一手増量？と思わせておいて…実は遠い88が争点となる10手超有名作の応用。騙された感が気分爽快。隠れ場所がない一本道のコリドーに敵のビームが来て、一瞬ぽっかり空いた79のマスに逃げ込む、なぜかレトロゲーム(ロードランナーとか)を思い出しました。」

■まずは疑う、はてるま手筋。

斧間徳子「4手目まではほぼ必然なのに、88銀～79玉がなかなか思い浮かばず苦戦した。」

■見たことがない詰み上がりでした。

諏訪冬葉「はてるま手筋だとうまくいかないが他にサポートできそうな駒は・・・あっ、こんなところにいた。」

■使うつもりは無かったのに自陣角がいい仕事をしました。

のくせに「龍単騎しかないと思い込んで苦戦。まさかの大転換でした。」

■8手目△39龍、10手目△28龍では49と59に玉の退路があって失敗します。

ほっと「この龍の動きは初めて見た気がする。」

■過去作品を見直してみましたが初めてのようです。

緑衾「はてるま手筋かと思ったら違ったのですが、飛成までは合ってたので解きやすかったです。」

■6手目の飛成までは一直線でも残り4手が難しかったはずですが、なんなくクリアされましたか。

RINTARO「4手目までは必然で6手目も37飛成しかない。その後の2手は龍を動かすしかないで龍の単騎詰かと思ったが、全然足りない。もしや22角を使うのではと考えたとき、88龍に気付いた。佳作。」

■不動の22の角に気付かなければ、龍単騎しかないと考えるのが論理。

たくぼん「王が左へ移動する手はなかなか思い浮かばなかった。88銀がすこぶるいい手でした」

■玉の退避場所を作るとともに最後に取りらせて88への利きを無くす絶妙の協力手。

変寝夢「ソフト回答です。4手目までは割合早く見えたが、88銀が盲点。大きな表現でびっくりしました。プラス条件初手76歩6手目37飛成7手目玉で、37万局面1分で3手目が

非限定の2解を抽出。」

■局面数と所要時間は比例関係じゃないのですね。

神在月生「右辺での詰みからの脱却が必要。」

■玉の上を行き過ぎる龍の動きは自陣の角があることに気付くかがカギ。

はなさかしろう「以前、条件付けを考えたのですがピタッと決まらなかった手順でした。なるほどの「龍で連続王手」、ぴったりですね。」

■初めて見る龍の動きも既に検討済みの詰み手順でしたか。

原岡望「竜から遠ざかった積りだったのに。」

■玉は龍から遠ざかり、龍に追い越されたのに詰んでいた。

飯山修「88銀が絶妙」

■これを発見した時に「なるほど」と唸った人も居るでしょうね。

S.Kimura「龍単騎で詰ませると勘違いしていたため、こちらもヒントで情報が増えた気がせず、自陣角の利きを活用すればよいことになかなか気が付きませんでした。」

■どうしても戦場を注視しがち。「よく見るよろし」ですね。

正解：18名

テイエムガンバさん 渡辺さん 小山邦明さん
リーグ戦ファンさん 斧間徳子さん NAOさん
諏訪冬葉さん のくせにさん ほっとさん
緑衾さん RINTAROさん たくぼんさん
変寝夢さん 神在月生さん はなさかしろうさん
原岡望さん 飯山修さん S.Kimuraさん

122-3 上級 緑衾 作
三度目は駒打ち 12手

(10手目まで進んだ後)
「ほほう、すでに後手は自分が不成で駒取りをしたマスで再び成りで駒取りをしているんだ」
「先手の方はすでに大駒の手とその直後の手を同じ筋に指しているね」

(さらに手が進んだ後)
「12手目に自分が2回駒取りをしたマスへ今度は駒を打ったよ。後手はよっぽどそのマスが好きなんだな。」
「その駒打ちが初王手でなんと詰んでいるね」

(条件)
・10手目の時点で後手は自分が不成で駒取りをしたマスで再び成りで駒取りをしていた
・10手目の時点で先手は大駒の手とその直後の手を同じ筋に指していた
・後手は12手目の自分が2回駒取りをしたマスへ駒を打つ初王手で詰ませた

出題のことば (担当 Pontamon)
同じ地点への着手で駒取り2回と駒打ちを実現できるのは？

追加ヒント
後手は2つの地点の行き来で4回駒取りして、最後に取った駒を打ちます。

余詰修正
会話と条件での先手の「大駒の手」を「飛車の手」に修正

会話修正
「12手目に自分が2回駒取りをしたマスへ今度は駒を打ったよ。後手はよっぽどそのマスが好きなんだな。」(2つの文の順序を入れ替えました)
「その駒打ちが初王手でなんと詰んでいるね」(「駒打ちが」を挿入しました)

推理将棋122-3 解答 担当 Pontamon

▲68飛、△34歩、▲66歩、△同角、▲58玉、△77角不成、
▲66飛、△同角不成、▲77桂、△同角成、▲48銀、△66桂 まで12手

(条件)

- ・10手目の時点で後手は自分が不成で駒取りをしたマスで再び成りで駒取りをしていた（6手目△77角不成、10手目△77同角成）
- ・10手目の時点で先手は大駒の手とその直後の手を同じ筋に指していた（初手▲68飛、3手目▲66歩）
- ・後手は12手目の自分が2回駒取りをしたマスへ駒を打つ初王手で詰ませた（4手目△66同角、8手目△66同角不成、12手目△66桂）

詰上り図

後手の持駒：飛歩2

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	駒	王	王	駒	科	皇		一
	飛								二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
						歩			四
									五
			科						六
歩	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	七
	角			玉	銀				八
香		銀	金		金		桂	香	九

持駒 なし

後手は、同じ地点で2回駒を取って、3回目のその地点への着手は駒打ちで先手玉を詰めるというミッションです。

同じ地点で駒を連続で取って、一方は不成でもう一方は成の着手をするなら、角道にある77地点が思い浮かびます。参考1図は後手の7筋の歩を突き進めて来て、先手は▲77角と上がった（次の手番で同じ筋の着手をしないといけないので先に角が動きます）ところです。この後、△77同角不成、▲同桂、△同歩成とすれば、わずか3手で77地点での駒取り2回でしかも不成と成を実現できます。その後、△67とと寄ってから△77桂と打って吊るし桂のできあがりです。



参考1図

後手の持駒：歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	駒	王	王	駒	科	皇		一
	飛						歩		二
歩	歩		歩	歩	歩		歩	歩	三
						歩			四
									五
		歩							六
歩	歩	角	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	玉	金	金	銀	桂	香	九

持駒 なし

しかし、この参考1図までの手順は、▲76歩、△34歩、▲58玉、△74歩、▲59金左、△75歩、▲69玉、△76歩、▲77角までの9手を指した局面でした。その後の3手で2回の駒取りを不成し成で実現できて、吊るし桂までの詰み形が見えていても手数オーバーでした。後手の歩の代わりに△73桂、△65桂と跳んでも手数に変わりはありません。

2枚の駒で同一地点での駒取りは効率が良いのですが準備に時間が掛かり過ぎてしまうことが分かりました。となると、ひとつの駒で何度も同じ地点へ着手すること考えることになります。それが可能なのは角です。たとえば、4手目に△77角不成で歩を取って、6手目は77地点から離れる手、先手の7手目は77地点へ駒を補充する手、8手目は△77同角成で2回目の駒取りで今度は成で取ります。10手目は馬を77から移動する手で、12手目は8手目で取った駒を77へ打って先手玉を詰めるといった手順のはずです。つまり、後手の同一地点の3回の着手は、4手目、8手目、12手目の4手毎になります。不成と成のことを考えると、それが可能なのは77か88のはずです。

まずは77地点を考えてみます。77地点には角と桂が利いているので、4手目の△77角不成での歩取りから始めると12手目の駒打ちを同で取ることができてしまうので、先手番で角か桂の77への利きを外しておく必要があります。初手から▲76歩、△34歩、▲77桂/角、△同角不成では、4手目が王手になってしまうので、

初王手にならないようにする対応も必要なので4手目は歩取りで決まります。

初手から、▲68銀、△34歩、▲79角、△77角不成、▲58金左、△88角不成、▲77桂、△同角成、▲69玉、△67馬、▲59銀、△77桂だと12手目の△77桂の吊るし桂が初王手になって詰みなのですが、先手の大駒着手の次の手番で同じ筋の着手をする条件をクリアできません。(という解説を用意しておきながら3手目と5手目の入れ替えて、▲79角の次の手番で▲77桂が可能なのに気付かなかった。)

余詰修正後の大駒着手が飛であることが判明している場合、▲58金左、△34歩、▲69玉、△77角不成、▲59金引△、88角不成、▲77桂、△同角成、▲18飛、△67馬、▲16歩、△77桂のように先手の飛の着手と次の手番での同じ筋の着手は、9手目と11手目になってしまい、10手目の時点では条件をクリアできなくて失敗します。

王手の対処が不要な88地点での駒取り2回はどうでしょう。参考2図は、▲78飛、△34歩、▲76歩、△88角不成、▲68金、△79角不成、▲88飛、△同角成、▲69玉、△87馬、▲79玉、△88角の12手で詰めた局面ですが、10手目の△87馬が王手になっているため2回目の王手での詰みでした。88への他の駒種での詰みもないようです。

77地点も88地点もうまく行きません。何か見落としがあったのでしょうか？実は作者による罫がありました。同じ地点での駒取り2回の一方が不成でもう1回は成での駒取りという条件と、2回駒取りをした地点への3回目の着手が駒打ちで詰みというのが当然ながら同じ地点のことだと思い込んでいました。最終手は4手目に駒取りした地点になることに間違いはありませんが、その地点で不成と成をしなくても良いのです。そう考えると4手目に駒を取れる地点として、55や66があることに気付きます。55の場合は初手から▲56歩、△34歩、▲55歩、△同角、▲76歩、△22角、▲55角、△同角の手順で55地点で2回の駒取りができ、12手目に△55角を打つことができても先手玉を詰ます形が思い浮かびませんし、同じ地点で不成と成で駒を取るという条件もクリアできません。

参考2図

後手の持駒：飛銀歩

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	王	王	爵	科	皇		
二		飛								
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	
四							歩			
五										
六			歩							
七	歩	金		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八		馬		金						
九	香	桂	玉			金	銀	桂	香	

持駒なし

△34歩と最終手を除いた4手は、4手目で駒取りを開始する地点と、不成と成で駒を取れる地点の77地点とを行き来して駒取りを4手連続ですること条件をクリアすることができるはずです。

4手目は66地点で駒を取るの、▲66歩が必須ですが、それは初手でしょうか、3手目でしょうか？初手を▲68飛として3手目に▲66歩を指せば先手の着手条件をクリアできます。初手から、▲68飛、△34歩、▲66歩、△同角までの4手が決まります。5手目は不明ですが、6手目からは△77角不成、▲66飛、△同角不成、▲77角か▲77桂、△同角成、▲何か、△66に10手目で取った角か桂を打って詰みになる手順のはずです。先手の未確定着手は5手目と11手目で、12手目が66への角ならば、玉は48で△56歩の着手も必要だけど玉の退路が塞がれていないので失敗します。となると最終手は△66桂なので玉は58。77の馬が利いているので59はカバーできているので11手目は△48銀で玉の退路を封鎖すればよいことになります。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

緑衾(作者)「角を引く筋が全く見えてませんでした。すみません。」

■出題時点では解説も完成させているのですが、解説文を作成した時点で担当が気付いていなければいけない余詰手順でした。粗検、申し訳ありませんでした。

D J カートン (余詰解)「何故か「上級」の1 2 2-3 が最初に解けた (出題者と「読みが合った」?) ので1 と2 はまだ解けていません。」

■ 早々に余詰手順を解答いただきました。

渡辺(余詰解)「指摘された余詰解はこれですね。作意解は頂いているので省略します。」

■ 誌面に制限がある詰パラでの採用が難しく、こちらへ回ってきたようです。

小山邦明 (余詰解)「6 手目の角の不成の位置は88 以外にいろいろあるが、先手の銀の動きは気付きにくく楽しめました。」

■ 余詰手順で68 銀から59 銀へ移動して玉の退路封鎖ですね。

リーグ戦ファン「私は叙述トリック大好き。本作は叙述トリック系の超名作と思います。推理将棋の叙述トリックは、作者が誘導したい方向には解がないということが解答者にメタ的に想像できてしまう (一番多い例が、限定条件の不在から手順前後が多数成立することで可能性を消せる) ことが原因でバレ易いのですが…本作は「初手▲78 金～▽77 桂打まで」等のいかにも本解っぽく見える手順がいくつもあるので、▽77 桂打を本線と誤解させたまま追わせる効果が増しています。

作者サイドで眺めると、メインテーマの叙述トリックで意図解を活かすためには4 手目を77 不成 or88 不成とする山ほどの余詰 (なにしろ守備側4 手・5 手で成り立つ順がたくさんある) を全部きちんとつぶして、意図解に2 個ある手順前後も消す必要がある。それがすっきりした2 条件【初王手】【飛の直後に同じ筋】だけで実現できているとは。この作品、どれだけ推敲を重ねたんだろう。恐れすら感じます。」

■ まさか2 回の駒取りをする地点が2 つもあるなんて思わないから、不成と成をした地点へ駒打ちするのだと勘違いします。

斧間徳子 (余詰解)「作意解が難しくてなかなか分からないので、余詰解の方を回答します。」

■ 余詰手順は正解となります。解答強豪の斧間さんから作意順の解答が無かったのは意外。

N A O (余詰解)「作意の"飛車の手"は未だわからないのでヒント待ち。」

■ ヒント待ちとのことでしたが、ヒント後に作意手順の解答送付は無かったです。他のフェアリー問題の解図とか年賀詰の作図で忙しいのかな。

諏訪冬葉「最初にこの回答にたどり着いたとき「最初の66 角は不成じゃないけどいいのか」と思いましたが、「不成と成で駒取したマス」≠「最後の駒打ちのマス」だったのか。」

■ 7 手目から▲66 飛、△66 同角成、▲77 桂、△77 同馬で最終手△66 桂の手順でしょうか。そこまで行けば77 で不成と成をすれば良いのはすぐ気づいたでしょう。

のくせに(余詰解)「77 桂の吊し詰めと予想し、飛車を動かすもギリギリ条件を満たせず、試しに角で考えてみると余詰順は見つけることができました。追加ヒントを見ても詰め上がりの形が見えず、作意順はギブアップ。」

■ 77 桂までや88 銀までは辛うじて余詰を逃れている紛れ筋。駒を取る地点を考えると66 は出てきにくい。大駒着手の次の手番で同じ筋の条件の方から考えると、初手68 飛、3 手目66 歩がすんなり出てくるのですが。

ほっと(双方解)「直前ヒントと会話文を何度も読み返してようやくトリックに気付いた。1 番目の発言のマスA と3 番目の発言のマスB が別だったのか！これに気付くまでは修正前の余詰の類似手順を延々と探していた。」

■ でも、双方解はほっとさんお一人でした。

RINTARO「条件を壮大に勘違いしていました。そりゃ、全然解けないわけだ。勘違いしていた条件とは、不成で駒取りをして、成で駒取りをして、最後初王手で駒を打ったマスが同じマスだというもの。これも一種のミスディレクションなんですかね。先程、改めて条件を眺めていたら、「不成」「成」のマスと最終手のマスが同じとは、どこにも書かれてないじゃんと感じ、初手68 飛を検討してみたら、数秒後に詰んだ。本作は、条件を勘違いさせる点において、上級でした。」

■投稿時、「大駒着手の次の手番で同じ筋着手」の条件を見て、68 飛からの 66 歩が浮かんだので簡単に解けてしまい、難易度を見誤った感じでした。

たくぼん「皆さんそうだと思いますが、駒取りする地点は 77 とか 88 で考えますね。さんざん考えた挙句 68 飛～66 歩を思いつき 66 地点でもいけると気付きました。この好作で初登場とは驚きの新人ですね」

■詰パラ 10 月号での初登場の 413 番の短評に「初登場とは思えない作品に驚いた」と書いていたのですがコメントが長くなったので割愛しました。緑衾さんから年賀詰も投稿いただいています。

変寝夢「最終手は 7 7 桂に絞って考えましたが、ダメでした。詰むのは詰むんですが、飛の直後の手が同じ筋と言う条件がきつかったです。前後の手が関係するコマンドは、まだ出来ないの（間違えるとえらいことになるのです）、P C 解答も出来ませんでした。残念。」

■駒尻の手とかも難しいのかな？初形のまま居座っているとは限らないし。

神在月生「122-1 のおかげで時間なしのためあきらめて無解で解答送信後ちょっと考えたら解けちゃった。詰上がりを考えてみて、77 角は最終駒取りの角が無理・88 飛はちょっと無理・66 飛の詰みは周辺の駒移動に手数要、というので 66 桂がひらめいた。」

■すみません、ヒント投入を考え直します。と言うより選題時の難易度判断が適切ではないですね。

はなさかしろう「77 への桂打ちで詰ましたくて嵌ってしまい、結局ヒントを頂戴しました。難問でした。解けて良かったです。」

■誰もが引きずり込まれる 77 の吊るし桂の魅力。

飯山修「成生条件がある為 66 を選びずらいところがミソですね」

■66 で不成と成をすると 66 に馬が残る形なの

で詰みへ持って行くのは難しそうです。

S.Kimura 「4 手目に 77 か 88 に角が成るパターンをさんざん考えたのですが、答えにたどり着きませんでした。正解発表を楽しみにしています。」

■なんと、66 が正解でした。

正解：15名

D Jカートンさん 渡辺さん 小山邦明さん リーグ戦ファンさん 斧間徳子さん NAOさん 諏訪冬葉さん のくせにさん ほっとさん 緑衾さん RINTARO さん たくぼんさん 神在月生さん はなさかしろうさん 飯山修さん

総評

リーグ戦ファン「12 回から 50 回まで皆勤でお世話になっておりました「リーグ戦ファン」です。仕事の関係でずっと推理将棋を封じておりました 8 年ぶりの投稿になります。今回、本当にひさびさに推理将棋を堪能しました。」

■私は 74 回からの参加ですので「初めまして」です。作品の投稿もお待ちしております。

斧間徳子「3 ヶ月連続余詰め発生となってしまいました。余詰めは基本的に作者の責任ですので、Pontamon さんは気落ちなどされぬよう願っています。」

■どの余詰も検討筋だったので見過ごしていたのでショック倍増で凹んでました。まるっきり検討していない意外な筋での余詰なら諦めもつくのですが...

諏訪冬葉「今回は全く答えが浮かばず完全にヒント待ちでした。」

■出題中の 123 回は易問の初級と中の上 2 題という感じなので行けますね。年賀推理は 20 手超があるのでヒント待ち（もしかすると中間ヒントも投入か？）になるかもしれません。

のくせに「追加ヒント前は 122-3 の余詰順しか解けませんでした。全部上級クラスの所用時間でした。」

■初級と中級がヒント待ちで上級クラスの感じですか。手数以外のクラス分けの基準に使えるのは、紛れ筋の多さかな。逆に紛れがひとつもないのも見当がつかないので難しい気がする。

ほっと「今回は122-3の紛れ筋に嵌って大変なことに……。」

■紛れ筋が多いと、出題を機に突き詰めたくなくなります。他の余詰手順が見つかるかもしれないと思うと止められない。

緑衾「122-3について、駒成と駒打のマスが違うと気がつかれたら簡単すぎると思い、ひっかけを入れてみましたが、あまりこういうことはしないようですね。もっといい出題のしかたがあったかもしれません。」

■投稿持コメントは「駒成りと駒打ちが同じマスだと思わせることが狙いです。」でした。解答者が勝手にミスディレクションするのは出題者の責任ではありませんが、誤解されやすい表現は避けるべきですね。

RINTARO「3にかけた膨大な時間を返してほしい気持ちで一杯です。」

■すみません、完全に難易度設定の間違いです。と言っても超上級はないので上級での出題しかできません。

たくぼん「解答が少ないということでしたので、一時は諦めていましたが考え直して何とか解答できました。今回は良作揃いで過去最高の出題かなと思いました。」

■Twitterで愚痴った効果で解答していただいたようです。愚痴と言うかヒントが足りなかったのかなというボヤキでしたが。

変寝夢「初級と中級の設定が難しそうですね。年賀推理楽しみにしています。フェアリー推理が解禁になったら参加させて頂く予定です。」

■担当の年賀推理は11手と20手の2作を用意しています。年賀推理は手数も長目が多くなるし、3題以上集まれば解図も時間がかかると思うので中間ヒント投入も必要かな。

神在月生「締め切り前ヒントのおかげで何とか2問解答できたが、今回は全問が上級。得手不得手・個人差があると思うが122-1は最上級。(私にとっては)」

■同様の総評があったので、手数に関係なく難易度は上級だったようですね。

原岡望「今回は一題だけ。長考の甲斐がなく残念です。」

■先月は解答者全問正解だったので、今月は少し難しいくらいでいいと思ったのですが。台所事情を明かせば、選題にゆとりが無いというのが実情です。

飯山修「全問正解の話題をとりあげると全問解けてない時解答を送りづらいです」

■前回、全解答者全問正解なんて書いたのが仇になりましたか。もし解けなくても、感想だけでも結構ですのでよろしくお願いします。

占魚亭「今回は完敗、白旗、白紙解答です。何も浮かばなかったです……。」

■結果稿に手を付ける前に初級の解答をいただいたので追加しておきました。

S.Kimura「今回は難しく、全問ヒント待ちでした。122-3は結局解けなかったもので、次回はもっと直球なヒントが出ることを期待しています。」

■単に「2地点の行き来」ではなく「66と77の行き来で4回駒を取る」という直球が良かったですね。

推理将棋第122回出題全解答者： 20名

D Jカートンさん テイエムガンバさん 渡辺さん 小山邦明さん リーグ戦ファンさん 斧間徳子さん NAOさん 諏訪冬葉さんのくせにさん ほっとさん 緑衾さん RINTAROさん たくぼんさん 変寝夢さん 神在月生さん はなさかしろうさん 原岡望さん 飯山修さん 占魚亭さん S.Kimuraさん *****

第2回不詰展示会【作意発表編】

占魚亭

☆たくぼんさん、変寝夢さんから解答・コメントをいただきました。ありがとうございました。

【点鏡】55に関して点対称な位置にある2つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。なお、行き所のない駒の禁則は適用されない。

【All-in-Shogi】双方とも自分の手番の時に相手の駒を動かすこともできる。敵玉を王手がかかる位置に動かしてもいいし、敵の持駒を打ってもいい。ただし、双方とも1手前の局面に戻すような着手は禁手。
<補足>

1)相手側の駒を動かすとき、自分側の駒を取らせることはできるが、相手側の駒を取らせることはできない。

2)相手側の駒で自分側の駒を取らせたとき、その駒は相手側の持駒となる。

3)自玉を取らせる手は反則。

【協力自玉スタイルメイト】双方協力して攻方玉をスタイルメイトにする。スタイルメイトとは、王手は掛かかっていないが合法手のない状態のこと。

※最終手に対してAll-in-Shogiを適用しないルール設定です。

その1

点鏡All-in-Shogi

協力自玉スタイルメイト 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
							王		三
									四
					王				五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛

【作意】

43 飛、34 玉、64v 桂、43 玉まで4手。

最終形

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
					王				三
			飛						四
									五
					王				六
									七
									八
									九

持駒 なし

【解説もどき】

XX 飛、34 玉、64v 桂と想定した時、玉が43地点に行けばスタイルメイトになると気付けるかどうか。最終形から飛車の打ち場所を捻り出す作りになっているので、トップに持ってきたのは間違いでしたね。

【コメント】

たくぼんさん

何回解いても後手持駒打てるのを忘れてしまう(笑)。取らせる位置に打つ初手になるほどの1手。

変寝夢さん

全く詰め上がりが浮かばず。

その2

点鏡All-in-Shogi

協力自玉スタイルメイト 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
				王					六
									七
						王			八
									九

持駒 なし

【作意】

62v 角、57 飛、37v 飛不成、57 飛打まで4手。

最終形

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
			馬						二
									三
									四
			王						五
				飛		飛			六
					王				七
									八
									九

持駒 なし

【解説もどき】

同地点に同種駒を合駒するのが狙いの作品。分かりやすい手順なので、トップにするべきだったか。

【コメント】

たくぼんさん

安南っぽい感じでこれはいいフィーリング。

変寝夢さん

やっぱり最後飛を動かす手を読んでしまう。慣性で玉方の手を読むのは柔軟性がないですね

その3

点鏡All-in-Shogi

協力自玉スタイルメイト 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
			王				王		七
									八
									九

持駒 なし

【作意】

73v 飛、67 桂、79v 桂不成、31v 王まで4手。

最終形

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王		一
									二
		飛							三
									四
									五
									六
			王						七
									八
									九

持駒 なし

【解説もどき】

攻方王が大移動する作品。WFP113-8 で受方玉の移動をやったので今度は攻方王でやってみようということで作りました。合駒で出した桂馬を九段目に不成移動させるのが主眼で、最終形の予測が立たないと見えないので難しかったと思います。

【コメント】

たくぼんさん

その2と同じような感覚で考えたら全然ダメ。67 桂は最後までできっちり読まないと思えない1手でした。

変寝夢さん

73 飛が見えたので楽勝かと思いきや泥沼に。玉を動かすと王手が続くそうもない。57 辺りに逃げるのがまだまだだが、残り2手がわからない。残念。

【総評】

たくぼんさん

やっぱり4手が限度という気がします。4手までなら何とかいける気がします。

☆6手は WFP115-3 しか完成しませんでした。余詰でボロボロなので最終手適用外ルールで作るのは4手が丁度いいなと思いました。

変寝夢さん

1問解けてよかった。本当によかった。やっぱりボウズは避けたいですからね。

☆今回は前回よりも難しかったので、1問正解でもすごいと思います。解答ありがとうございました。

☆2回にわたり没作供養企画にお付き合いいただき、ありがとうございました。

賀正賀正正月正月
 = 初春寿寿寿初春×寿

※同じ漢字には同じ数字を、違う漢字には違う数字を当てはめてください。

本年もよろしくお祈りします。

<ルール説明>

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【白玉詰】

攻方は白玉を詰めるよう王手を掛け、受方はそれを妨げるよう応じる。

【Imitator】(■またはI)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。このImitatorが駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

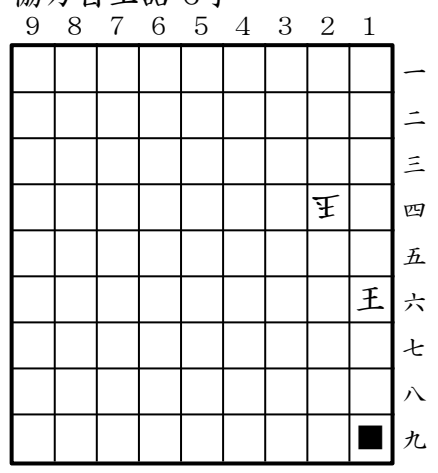
[補足]

駒を打ったときは動かない。

<問題>

【3-1】

協力白玉詰 6手



持駒 桂

15 王[I18] 23 玉[I17] 14 王[I16] 25 角
 15 桂 61 角[I52] まで 6手

たくぼん

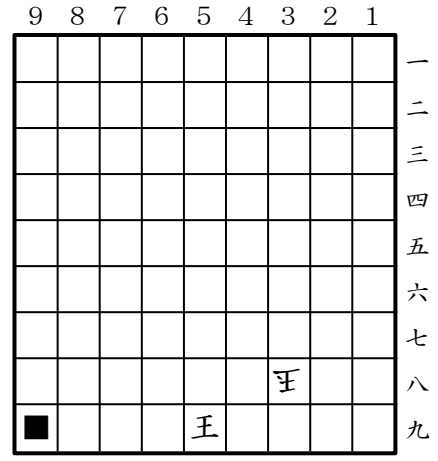
25 角から 61 角は相当見え難い手でした。手が狭いのにかなり悩みました。

占魚亭

そうか、飛車ではなくて角を出すのか。

【3-2】

協力白玉詰 6手



持駒 角

49 王[I89] 78 飛 29 角 88 飛成[I99]
 39 王[I89] 97 龍[I98] まで 6手

たくぼん

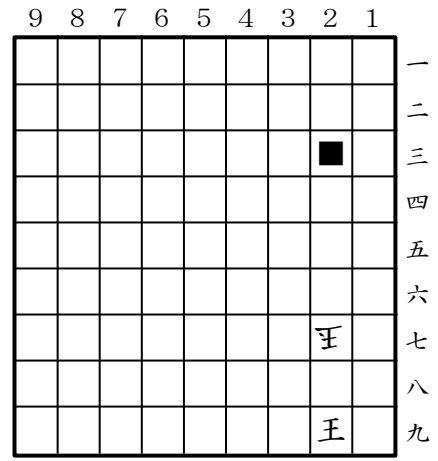
初手 49 王に行き当たるまでに時間がかかる。数多く解いてもなかなか経験則が活かせない。

占魚亭

成るのが決め手ですね。

【3-3】

協力白玉詰 6手



持駒 桂

39 桂 11 飛 18 王[I12] 91 飛[I92]
19 王[I93] 28 玉[I94] まで 6 手

たくぼん

91 飛ねえ。右ばかり見ているとなかなか思い当たらない。

占魚亭

飛車の大移動がお見事。この形と持駒でも出来るのか！

【3-4】

協力白玉詰 6手

										一
										二
										三
							王			四
										五
										六
						■		王		七
										八
										九

持駒 桂

56 桂 45 桂 47 王[I67] 55 桂
46 王[I66] 54 桂 まで 6 手

詰上り

										一
										二
										三
							科	王		四
							科	科		五
						■	桂	王		六
										七
										八
										九

持駒 なし

たくぼん

面白い！こんな作品なら imitator でも楽しめる。

占魚亭

桂には桂。今回の4作の中でいちばん易しかったです。

※楽しんでもらったようです。作者もお気に入りです。

<総評>

たくぼん

6手は時間かかりますね。4手くらいが楽しめそうです。

※4手だとなかなか表現の幅を広げるのは難しいですね。そのうちもっと長いのも出てきます。

<余談>

今年の詰将棋全国大会の案内が公開されましたね。沼津から博多は遠いですが参加予定です。これまで一度も出たことがない懇親会にも出てみようかと思っています。ちょっとあわただしい行程になりそうですが。

1月3日 Rice Bowl@東京ドーム



1月11日 大学ラグビー決勝@国立競技場



強欲な世界 PART10

たくぼん

久しぶりに強欲な世界を開催します。前回のPART9が2017年1月でしたので3年ぶりという事になりました。今回の作品群はこれまで発表に至らなかった作品たちでこのまま埋もれてしまうのもどうかという作品ですので期待せず？に解図頂ければと思います。

太郎さんや占魚亭さん同様に特に解答募集はしませんが、感想等はよろしければお送り頂けると嬉しいです。解答は次号にて発表します。

感想等送り先：takuji@dokidoki.ne.jp

【強欲】駒を取る手を優先して着手を選ぶ

①

強欲協力詰 73手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						と		と	一
								と	二
角				桂				と	三
	と	と					王		四
香	香						香		五
歩	香	飛				香			六
香	香	と				と	香	歩	七
龍	桂	歩	歩	歩	歩	歩	歩	桂	八
角	歩	銀	桂	香	銀	銀	香		九

持駒 なし

②

強欲協力詰 75手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	王					角		角	一
	香				銀				二
香					香	香			三
香		香			飛	と	と		四
歩	香	香		歩	と				五
				桂	歩				六
	桂		歩	桂	と	と	歩		七
香		歩		と	香		香		八
	飛		と	と	桂	香	香	銀	九

持駒 なし

③

強欲協力詰 77手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀	香								一
歩									二
	桂	と						王	三
	香		歩						四
と	香	香	香	香	金	と	香	香	五
と	香	香	角	香		龍		香	六
	歩	香	銀	金	香		銀		七
桂	桂			と		香			八
	桂	玉			馬	金	香	飛	九

持駒 なし

④

強欲協力詰 73手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	飛	五
香	香	香	香	香	香	香	桂	金	六
香			香	香	と	香	馬	銀	七
銀	王	角	と	香	香				八
桂	香	香	桂	と	龍	桂			九

持駒 なし

⑤

強欲協力詰 74手 (受先)

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
香	香	と	香						一	
と						と	王	龍	香	二
香						香			歩	三
香						桂			香	四
と	馬	香	香			桂			香	五
飛			香			桂			と	六
と			香			馬			香	七
桂			歩			と			と	八
と	香	香	香				と	香		九

持駒 なし

*還暦を記念して

レトロプロブレム入門(1)

高坂 研

明けましておめでとうございます。須川様のご厚意により、今年から WFP の誌面をお借りしてレトロプロブレムの世界的一端を紹介させて頂くことになりました。今後とも宜しくお願いします。

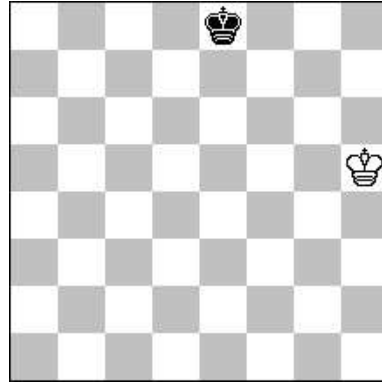
さて、一口にレトロといっても、とんち問題のようなものから高等数学の証明のようなハイレベルなものまで様々ですが、それらを解図する上で必要なのは、チェスおよびチェスプロブレムのルールの知識とロジカルな思考力だけで、それ以外の予備知識は一切要りません。一般的に難しいというイメージがあるレトロですが、私に言わせればこれ程とっつきやすいジャンルはありません。今後この連載を通読して貰えば、きっと皆さんにも納得して頂けることと思えます。

これから、クラシカルレトロとブルーフゲームを交互に出題・解説する予定です。解答募集はしませんが、読者の方々には実際に解図されてみることを強くお勧めします(たとえ解けなくても、後で解説を読んだときの理解度が全然違う筈ですから)。疑問点或いは分かり難い点がございましたら、k-kosaka@rj8.so-net.ne.jpまでご連絡下さい。

尚、作品及び解説の一部が「チェス・プロブレム入門」と重複していることを予めお詫びしておきます。

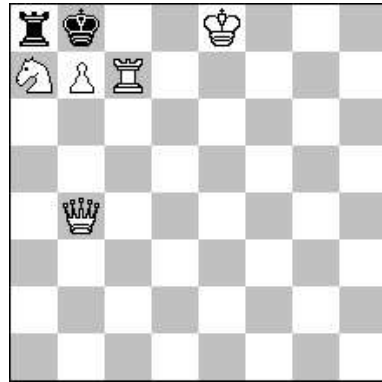


(1) Julio Sunyer (Chess Amateur 1926)



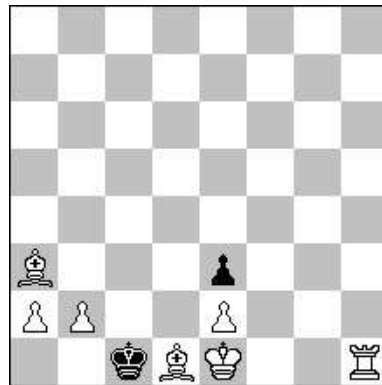
双方1手ずつ戻し、それから H#1 にせよ(1+1)

(2) Walter Freiherr von Holzhausen (Akademische Schachblätter 1901)



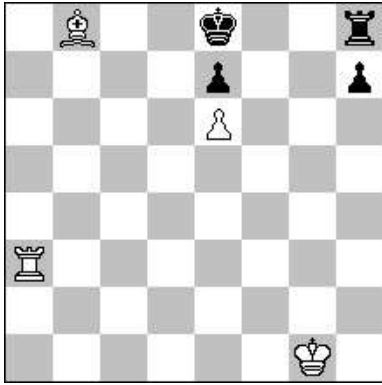
#1 (5+2)

(3) Joseph C. J. Wainwright (American Chess Bulletin 04/1912)



#3 (7+2)

(4) Wolfgang Pauly
(The Chess Amateur 1913)



#2 b)+bPg2 (4+4)

ルール説明

Orthodox(#n) : 通常白から指し始め、白が n 手で黒 K をチェックメイトにする手順を求める (例えば、#2 なら白黒白と指して詰めることになる)。黒は詰められないよう抵抗する。

Helpmate(H#n) : 通常黒から指し始め、白が n 手で黒 K をチェックメイトにする手順を求める (例えば、H#2 なら黒白黒白と指して詰めることになる)。黒は詰められるよう白に最大限協力する。

* 上の 2 つのルールを含め、これから出題される全てのプロブレムは、以下の点で詰将棋と異なっていますので、ご注意ください。

- ① 白に王手義務はない。
- ② 指定された手数より長い手数で詰む順があってもそれは余詰ではなく、正解にもならない。
- ③ 全ての合駒は有効合とされ、無駄合というものは存在しない。詰将棋では無駄合とされるような合駒でも、それにより手数が指定されたものよりも長くなるならば、その手順は逃れ順である。

WFP サロン

年賀詰紹介

たくぼん

ここでは年初に発表された年賀詰（フェアリー、推理将棋）を紹介します。（詰将棋メモを参照させて頂いております。いつもありがとうございます）解が発表されている作品は解をつけておきます。

加賀孝志作「ニコニコ詰」

受先協力Q詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				飛					一
			香		香				二
									三
				玉					四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛

32 飛 35 飛 52Q 32 飛生 41 玉 31 飛打 迄

*全局面使用駒2種2枚ずつで「ニコニコ詰」

加賀孝志作「ニコニコ・II」

受先協力Q詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								飛	一
			玉						二
									三
									四
									五
									六
			香		香				七
									八
			飛						九

持駒 なし

58Q 18 飛生 38 金 同飛 49Q 39 金 迄

【受先】後手から指し始める

【協力】双方協力して最短で後手玉（Q）を詰める

【Q詰】後手玉（Q）はチェスのクイーンの動き（飛+角の動き）

中田了作

年賀推理将棋「11手目の11の手」

「駒成は無かったけど元日らしく指し初めは11手目の11の手で詰めたよ」

「どんな感じの対局だったの？」

「同の着手を含めて、3筋での3手連続着手があったよ」

「3と言えば正月三が日を暗示しているね」

「七草粥よろしく棋譜は1から7までの数字だけになるよ」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

- 1.駒成なく、11手目の11の着手で詰み
- 2.同の着手を含め3筋での3手連続着手があった
- 3.棋譜で使われる数字は1から7までの7つだけ

76歩 34歩 22角生 42玉 11角生 32銀 33角生 同玉 25香 42角 11角 迄 11手

吉田直嗣作

年賀推理将棋「2020年の初王手」

「あけましておめでとう。指し初めの一局はどうだった？」

「11手目の右も左も付かない成る手が初王手で詰ませて勝ったよ。11金に対して玉の手で応じたのが勝負を分けたね」

さて、どんな将棋だったのだろうか。そして2020年、貴方の勝負手は？

- 1.11手目の右も左も付かない成る手が初王手で詰んだ
- 2.11金に対して玉の手で応じた

76歩 42金 33角生 41玉 42角生 12香 11金 32玉 21金 33角 31角成 迄 11手

変寝夢作

協力詰 13手 (玉は02リーパー)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
	王								六
							金		七
								金	八
									九

持駒 桂2

【協力詰】 双方協力して最短で先手玉を詰める

【02リーパー】: 移動場所が(0,2)と(2,0)のリーパー。55にいた場合は53、35、75、57に動くことができる。

98桂 66玉 78桂 46玉 37金 48玉
38金 46玉 47金 26玉 17金 28玉
27金 迄 13手

*令和2年ということで02リーパー玉+金2枚と桂2枚使用ですね。

いりす作

八方桂

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
						科	皇	皇	三
								糸	四
						金	爵	王	五
						皇			六
						糸	糸	銀	七
									八
									九

持駒 桂歩

【八方桂】 桂の動きはチェスのナイトと同じ。

55にいた場合は63、43、34、36、74、76、67、47に動くことができる。

*かしこ詰で2→0の立体曲詰 (解非公開)

たくぼん作

強欲協力自玉詰 32手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
				糸					二
				角					三
		王	糸	角	糸	銀			四
					ス				五
				香					六
			歩	香	銀				七
		銀		金		金			八
				玉					九

持駒 なし

【強欲】 駒を取れるときは取る

【協力自玉詰】 双方協力して最短で先手玉を詰める

64角成 同玉 63角成 同玉 53香成 同歩
同香成 同玉 54歩 同玉 45銀 同歩
55歩 同玉 56歩 65玉 66歩 同玉
57金 同玉 58銀 56玉 67銀左 46玉
47銀 57玉 46銀 同歩 47金 同歩成
58銀 同と まで 32手

「ネ→1の立体曲詰の煙詰」

橋本さんより短評を頂きました。

橋本孝治

これは収束が少し難しかったです。歩を残したいという心理が働くので、56歩が指しにくい上、金銀のフォーメーションもよく考えねばなりません。「ネ」から「1」となる立体曲詰で、年賀詰に相応しい作品だと思います。

解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

2020年2月10日(月)

推理将棋第124回出題

推理将棋 3題

2020年2月15日(土)

第117回 WFP 作品展

フェアリー作品 14題

2020年3月15日(日)

第118回 WFP 作品展

フェアリー作品 8題

推理将棋 2題

【締切不定（感想のみも可）】

強欲な世界

強欲協力詰 5題

作品募集締切一覧

2020年2月15日(土)

Fairy of the Forest #62

課題：協力詰（自由課題）

投稿先：酒井博久（sakai8kyuu@hotmail.com）



【あとがき】

ご存知の方が多くとは思いますが、佐藤達也氏が編集されている「安南詰将棋全集」というものがあります。PDF版で一般公開されております。

詰将棋一番星

<http://1banboshi.on.coccan.jp/index.htm>

の「詰め物・読み物」コンテンツより見ることができます。

内容は、

1. 普通詰編
2. 協力詰編
3. 裸玉絨毯爆撃作戦編

と3つの編からなっており、これまでに発表された安南詰将棋作品を集めています。すごいのは単に、安南詰、安南協力詰だけではなく他のルールとの組み合わせたものも全て網羅されているところです。中には（協514）詰ガエルさんの「永劫回帰」縦シリンダー盤安南多玉協力千日手175,271,040手まで載っています。最後には、「増え続けていくため、絶えず編集途中」と書かれていますので随時更新されていくようです。皆さんも是非ご覧になって頂き、安南作品を創って作品を載せてみてはいかがでしょうか？

たくぼん

P たくぼん予備作解

33玉 43銀成 同玉 44歩 同玉 35角
同玉 46金 同玉 57金 同玉 66銀
56玉 65銀 55玉 64銀 同玉 63と
同玉 72銀 同玉 64桂 71玉 72歩
61玉 52歩成 迄 26手

20手目 72銀がちょっとだけ考え所か。

2020年 第139号

Web Fairy Paradise

非売品

令和二年一月号

令和二年一月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合先

須川卓二 takuji@dokidoki.ne.jp